



地方独立行政法人神奈川県立病院機構
精神医療センター

平成30年度

精神医療センター業務年報

令和元年11月

目 次

I 概 況

1 基本理念	1
2 沿革	1
3 組織・機構	5
4 職員配置状況	6
5 施設	8
施設配置図	9
6 主な委員会・会議一覧	10
7 主な院内研修実績	11
8 主な活動実績	13

II 精神医療センター事務事業の状況

1 精神医療センター基本方針	25
2 経理の状況	
財務諸表	26
3 業務実績	
(1) 各種指標	29
4 患者の状況	
(1) 外来患者の状況	30
(2) 入退院患者の状況	32
(3) 救急医療の状況	38
5 業務の状況	
(1) 看護	39
(2) 作業療法 (OT)	48
(3) デイ・ケア療法	50
(4) 検査業務	55
(5) 福祉医療相談科業務	60
(6) 訪問看護業務	66
(7) 地域医療連携業務	68
(8) 薬剤業務	71
(9) 医療教育	72
(10) 栄養管理業務	72
(11) 保育業務	75

(注) 本年報の表は原則として平成31年3月31日をもって作成してあります。例外については、本文中に基準年月日を表示してあります。

I 概 況

1 基本理念

私たちは、こころの健康を支え、質の高い精神医療を提供します。

2 沿革

当センターは精神病院法に基づくわが国3番目の府県立精神病院として昭和4年3月から診療を開始した芹香院と、昭和38年4月、全国に先駆け、麻薬中毒患者専門医療施設として収容治療を開始し、その後、神経症、アルコール依存症、薬物中毒者の患者を対象に治療を行ってきたせりがや園を統合して、平成2年4月に神奈川県立精神医療センターとして改組した。(名称も芹香病院、せりがや病院に改称。)

平成26年12月両院を統合し、323床(許可病床)を有する新しい「神奈川県立精神医療センター」として開院した。

開設以来の主たる変遷は次のとおりである。

【芹香院】

昭和3年11月	本館及び病棟5棟 付属建物を含め延べ…3,606㎡の施設完成
4年3月	診療開始(150床)
35年7月	第1、第2病棟完成(作業療法棟…2,207.05㎡)
39年4月	地方公営企業法(企業会計方式)の一部適用
46年8月	院内保育施設新築
11月	C病棟、管理診療棟、サービス棟新築
48年1月	A病棟、B病棟、社会療法棟、喫茶売店棟、車庫棟新築
3月	温室及び看護婦宿舎新築
6月	作業療法棟改築
7月	事務局に医事課を新設
8月	事務局に栄養課を新設、医療局を部長制とし、作業療法科を新設、看護部に看護教育係を新設
50年7月	せりがや地区第一医療職員公舎完成
54年3月	A、B、C各病棟の2、3階に消防用スプリンクラー設備設置
10月	A3病棟を開棟
55年8月	事務局が総務局に、管理課が総務課に改称、総務局次長(総務課長兼務)新設
56年7月	保育施設改修
10月	芹香院作業療法用農場(27アール)整備工事完成
57年1月	身体障害者用便所、管理診療棟1箇所、A病棟1箇所完成
58年11月	緊急医療対策用保護室改修
60年9月	デイ・ケア施設改修
62年4月	医療局にデイ・ケア科を新設
	夜間、休日の緊急医療開始
12月	外来受付室、待合室改修
平成元年3月	保護室(6室)、静養室(16室)改修
2年1月	保護室(8室)改修

【せりがや園】

昭和38年 1月	本館新設（サーモコン2階建）
3月	厨房棟新築（コンクリート鉄骨平屋建）
4月	診療開始（70床）
39年 4月	地方公営企業法（企業会計方式）の一部適用
43年 7月	本館増築工事等 病棟、管理部門の改修
52年 4月	病床数（64床）変更

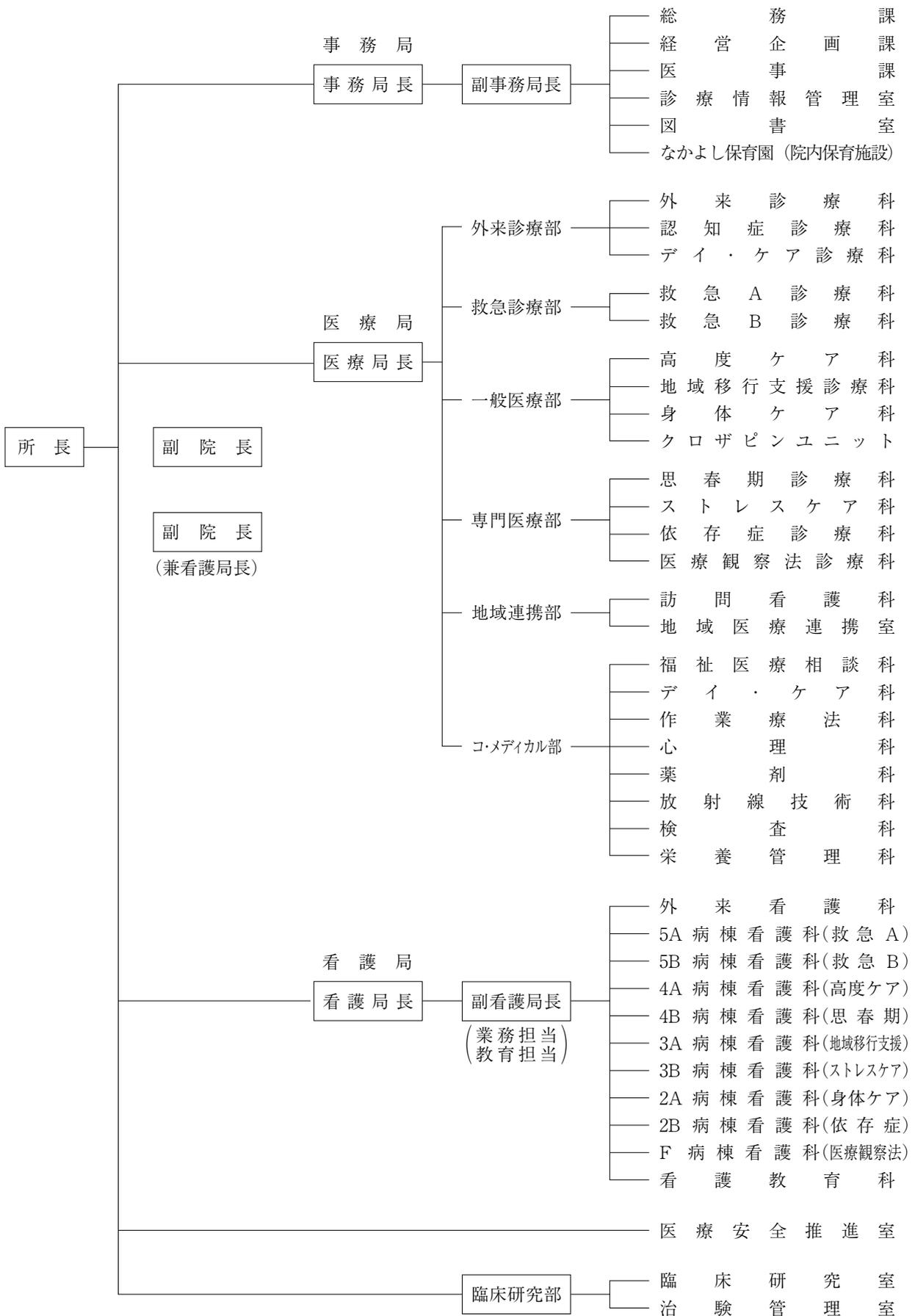
【精神医療センター】

平成2年 4月	芹香院とせりがや園を、精神医療センターに組織改正、センター所長職の設置、芹香院を芹香病院に、せりがや園をせりがや病院に改称、精神医療センター総務局に総務課、経理課、医事課及び栄養課設置 せりがや病院の医療局に心理・相談科、看護部に外来看護係、看護教育係を新設
9月	せりがや病院新築（80床）
3年 4月	芹香病院A1…病棟を老人性痴呆専門治療病棟（44床）に改修 芹香病院B3…病棟の一部を改築（結核合併症病棟16床、精神科病棟31床）
4年 4月	芹香病院B2…病棟保護室（4室）改修
5年 2月	せりがや病院 基準看護結核・精神特2類承認
3月	芹香病院 基準看護結核・精神特2類承認
6年 3月	看護婦共同宿舎、看護士宿舎、職員公舎一戸解体 芹香病院C1…病棟に消防用スプリンクラー設備設置
10月	芹香病院、せりがや病院新看護体系……3：1……承認
7年 3月	芹香病院B1…病棟に消防用スプリンクラー設備設置 C棟外壁塗装、屋上防水塗装工事完成
7年 5月	せりがや病院 特別管理給食加算（適時適温給食）実施
8年 3月	芹香病院A1…病棟に消防用スプリンクラー設備設置 芹香病院A2…病棟に感染症隔離室（2室）設置 芹香病院A3…病棟に救急用保護室（4室）、静養室（3室）設置
8年 4月	芹香病院病床数（497床）変更 芹香病院 精神科救急医療開始 選択メニュー給食の実施
10年12月	職員公舎3戸解体
12年 7月	芹香病院 特別管理給食加算（適時適温給食）実施
12月	第1医療職員公舎解体
14年 4月	芹香病院 精神科救急医療 24時間体制開始（8床）
15年 4月	芹香病院 精神科 救急病棟開設（B-1病棟 26床） 芹香病院 病床数（445床）変更
15年 9月	芹香病院 応急入院指定病院（1床）

平成15年10月	芹香病院 精神科急性期治療病棟（B1）入院科1 適用承認 芹香病院 紹介患者加算5実施
16年4月	芹香病院 精神科救急入院科（B1…病棟26床）適用承認 芹香病院 精神科救急入院施設管理加算（A1…病棟を除く）適用承認 芹香病院 医療保護入院等診療科適用承認 せりがや病院 医療保護入院等診療科適用承認 芹香病院 褥瘡患者管理加算適用承認
6月	芹香病院 療養環境加算（A1・B2…病棟）適用承認
9月	芹香病院 夜間勤務等看護加算（A1…病棟）
17年4月	地方公営企業法全部適用 精神医療センターの組織再編成 看護部を看護局と改称、経理課及び医事課を医事経営課に統合、栄養課を栄養管理科に改称、各看護係を看護科と改称、各病院内に医療安全推進室を設置、芹香病院診療科内の医療相談室を地域医療相談室と改称
12月	芹香病院 日本医療機能評価機構認定病院となる せりがや病院 日本医療機能評価機構認定病院となる
18年1月	芹香病院 診療録管理体制加算 せりがや病院 診療録管理体制加算
4月	芹香病院 15対1精神病棟入院基本料（A1…病棟及びB1…病棟を除く） 芹香病院 老人性認知症疾患治療病棟入院料1（A1…病棟） 芹香病院 医療安全対策加算 芹香病院 臨床研修病院入院診療加算 芹香病院 栄養管理実施加算 せりがや病院 15対1精神病棟入院基本料 せりがや病院 栄養管理実施加算
8月	芹香病院 精神科ショート・ケア「大規模なもの」
9月	芹香病院 指定自立支援医療機関（通院精神医療）の指定 せりがや病院 指定自立支援医療機関（通院精神医療）の指定
12月	芹香病院 特定病院認定
19年5月	芹香病院 精神科急性期治療病棟入院料2 適用承認
8月	せりがや病院 精神科作業療法適用承認
20年3月	芹香病院 老人性認知症専門病棟（A1…病棟）閉床 芹香病院 生活訓練・短期静養病棟（C1…病棟）閉床
4月	芹香病院 ストレスケア病棟（A2…病棟）開床 芹香病院 精神科地域移行実施加算
8月	芹香病院 看護補助加算1
21年2月	芹香病院 精神科急性期治療病棟入院料2（A2・B2…病棟）
4月	芹香病院 精神科救急入院料2（B1・B2…病棟） 芹香病院 通院対象者社会復帰連携体制強化加算
6月	せりがや病院 褥瘡患者管理加算

平成21年 9月	芹香病院 病床数（308床）変更
22年 2月	芹香病院 医療観察法指定入院医療機関の指定（2床） 芹香病院 入院対象者入院医学管理料
4月	地方独立行政法人へ移行
5月	芹香病院 救急医療管理加算 せりがや病院 重度アルコール依存症管理加算
6月	芹香病院 精神科救急入院料1（B1、B2…病棟）
7月	芹香病院 精神科急性期治療病棟入院料1（A2…病棟）
12月	芹香病院 精神科身体合併症管理加算 せりがや病院 精神科身体合併症管理加算 せりがや病院 13対1 精神科病棟入院基本料
23年 1月	芹香病院 作業療法棟及び社会療法棟の撤去
9月	芹香病院 医療観察法病棟の建設工事を開始
24年 2月	芹香病院精神科一般病棟（C3…病棟）休床
4月	芹香病院精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 芹香病院治療抵抗性統合失調症治療指導管理料
11月	医療観察法病棟（F病棟）の開棟（33床） 新精神医療センター本館の建設工事を開始
26年 3月	せりがや病院 1階病棟 休床
4月	せりがや病院精神保健福祉士配置加算 芹香病院精神科急性期医師配置加算（A2…病棟）
12月	精神医療センター本館開設、芹香病院・せりがや病院統合（323床） 思春期病棟開設 既存棟除却工事を開始 コンピューター断層撮影（16列以上64列未満のマルチスライス型の機器による場合） ニコチン依存症管理料
27年 1月	児童・思春期精神科入院医療管理料（4B病棟） 強度行動障害入院医療管理加算（4B病棟）
11月	既存棟除却工事完了
28年 9月	新院内保育施設建設工事を開始
29年 4月	新院内保育施設建設工事完了
5月	院内保育施設一般児童の受入開始
11月	「もの忘れ外来」を開設
30年 4月	MRIの稼働開始 看護職員夜間配置加算（5A、5B病棟） 児童・思春期精神科専門管理料（外来）
31年 2月	後発医薬品使用体制加算4（外来）

3 組織・機構 (平成31年4月1日現在)



4 職員配置状況 (平成31年4月1日現在)

所属 \ 職	事務職員	技術職員	技能職員	計	非常勤職員	再雇用職員	契約職員	任期付職員
所 長		1		1				
副 院 長		2		2				
事 務 局 長	(1)			(1)				
副 事 務 局 長	1			1				
総 務 課	6			6	4		2	
経 営 企 画 課	6			6	1		1	
医 事 課	5			5	2			
小 計	18	3		21	7	0	3	0
医 療 局 長		1		1				
診 療 科		20		20	24			6
作 業 療 法 科		9		9			1	
デ イ ・ ケ ア 科	3	4		7				
心 理 科	7			7	1			
福祉医療相談科	14			14	3		1	
地域医療連携室	1	2		3		1		
訪 問 看 護 科		4		4				
検 査 科				0	1			
薬 剤 科		6		6	1			
栄 養 管 理 科		3	11	14	16	1	5	
放 射 線 技 術 科		1		1				
看 護 局 長		(1)		(1)				
副 看 護 局 長		2		2				
看 護 局		233	3	236	14	7	9	
医 療 安 全 推 進 室		1		1				
臨 床 研 究 室	1			1				
小 計	26	286	14	326	60	9	16	6
計	44	289	14	347	67	9	19	6

(注) () は兼務

職種別内訳（平成31年4月1日現在）

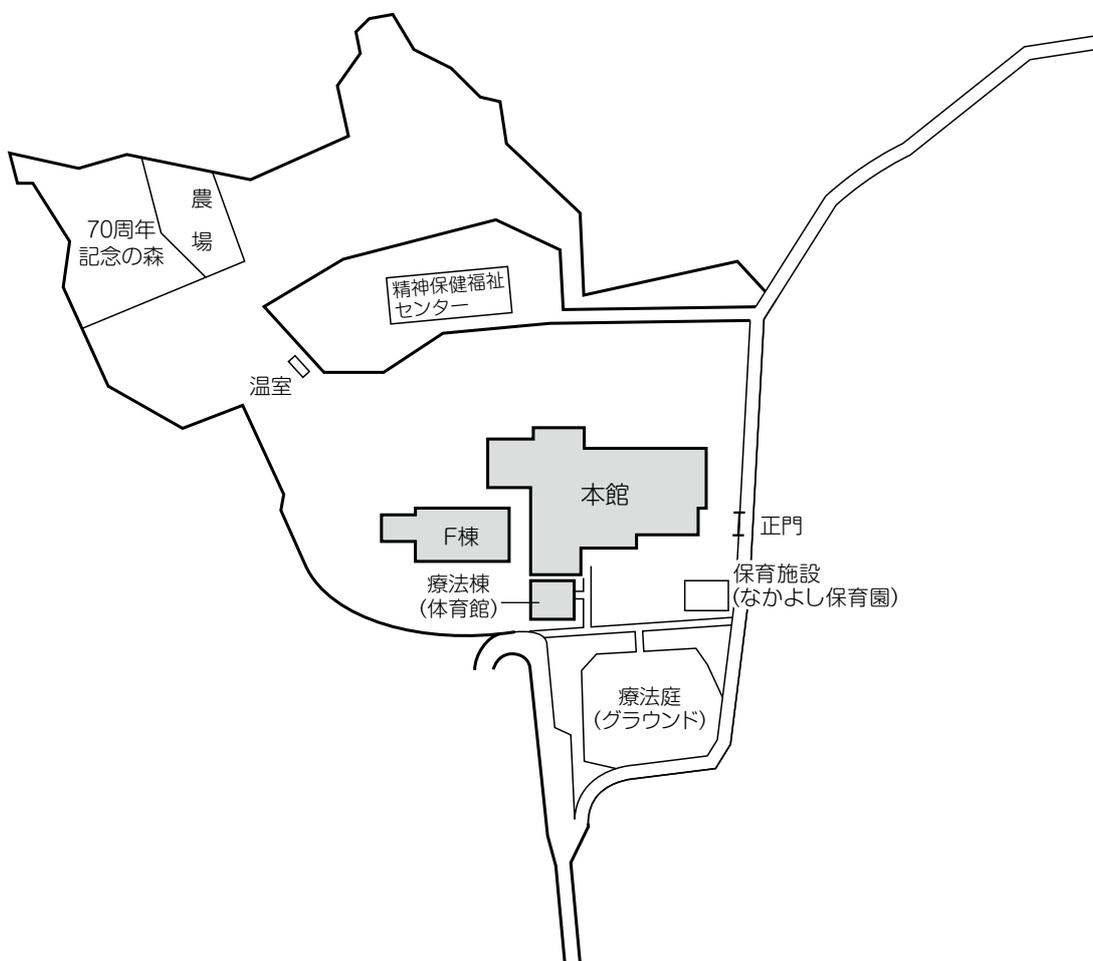
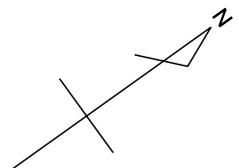
所属		所 長	事 務 局	医 療 局	看 護 局	計
職 種						
一 般 事 務 職			18			18
管 理 栄 養 士				3		3
調 理 職				11		11
医 師		1		22		23
福 祉 職	ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー			16		16
	臨 床 心 理 士			10		10
作 業 療 法 士				11		11
薬 剤 師				6		6
診 療 放 射 線 技 師				1		1
看 護 職			1	8	236	245
病 棟 技 能 職					3	3
総 数		1	19	88	239	347

5 施 設

【神奈川県立精神医療センター】（平成31年4月1日現在）

土 地		45,376.78㎡
建 物		(延べ面積)
本 館	鉄筋コンクリート造 地上5階建	18,462.53㎡
療 法 棟	鉄骨造 平屋建	543.86㎡
営 繕 棟	軽量プレハブ造 平屋建	59.81㎡
ポ ン プ 室	コンクリートブロック造 平屋建	14.37㎡
医 療 観 察 法 病 棟	鉄筋コンクリート造 地上2階建	2,998.75㎡
倉 庫	鉄筋コンクリート造 平屋建	21.00㎡
(防 災 倉 庫)	鉄筋コンクリート造 平屋建	43.21㎡
農 機 具 庫 (A)	鉄骨造 平屋建	1.75㎡
農 機 具 庫 (B)	鉄骨造 平屋建	1.75㎡
用 具 庫	鉄骨造 平屋建	1.26㎡
保 育 施 設	鉄骨造 平屋建	419.74㎡
計		22,568.03㎡

施設配置図



※なかよし保育園は平成 29 年 4 月に新築移転。

6 主な委員会・会議一覧 (平成31年4月1日現在)

委員会・会議	目 的	所管課(科)	構成員数	開 催 日
管 理 者 会 議	センターの運営基本方針、事業計画及び予算等の重要事項の協議決定	総 務 課	8人	月2回(第1・第4月)
経 営 会 議	センターの経営改善の推進に必要な事項の検討	医 事 課	28人	月1回(第4火)
診 療 情 報 部 会	センターのカルテ、看護記録等の診療情報の管理に関する事項の検討	医 事 課	7人	月1回(第2火)
倫 理 委 員 会	センターで行う医療等に関し、倫理上の配慮が求められる事項についての検討	総 務 課	8人	随時
機 種 等 選 定 会 議	備品購入又は委託等に係わる機種選定及び入札参加者等の適正な選定	経 営 企 画 課	7人	随時
工 事 発 注 方 法 審 査 会 議	工事の発注方法等の審査の実施	経 営 企 画 課	7人	随時
教 育 研 修 会 議	医療人材の教育・研修及び評価並びに、成果発表会の企画・運営	看 護 局	18人	隔月
運 営 調 整 会 議	センターの運営基本方針、事業計画及び予算等の重要事項の協議決定	総 務 課	33人	月1回(第1火)
感 染 防 止 対 策 会 議	センターの院内感染防止及び衛生管理対策等の検討	医 療 安 全 推 進 室	21人	月1回(第4火)
医 療 事 故 防 止 対 策 会 議	センターの医療事故防止体制の整備・確立及び防止対策の企画・立案等	医 療 安 全 推 進 室	20人	月1回(第1火)
栄 養 ・ 給 食 会 議	センターの栄養管理・食事サービス業務の効率的な運営と向上	栄 養 管 理 科	24人	年4回
薬 事 会 議	センターの医薬品の適正な管理及び効率的な運用	薬 剤 科	8人	年4回
衛 生 委 員 会	センターの職員の安全と健康の確保及び快適な作業環境の形成	総 務 課	8人	月1回(第1月)
看 護 科 長 会 議	センターの看護管理に関する連絡調整及び看護組織の運営改善等の協議、看護職員の資質向上の検討	看 護 局	14人	月3回 (第1・第2・第4水)

7 主な院内研修実績

月	研修	担当	開催日	テーマ	講師	参加数
4月	新採用・ 転入職員研修	総務課・看護局	4月2日～ 9日 (内5日間)	別紙参照	総務課・看護局	4名
7月	安全管理研修①	医療事故防止対策 会議	7月18日 他ビデオ視聴	MRIの安全管理につい て	放射線技術科 科長 遠藤 和男	348名
通信	接遇研修	教育研修会議	通信講義	接遇の基本を見直そう ケアの現場における 言葉遣い・声かけの工 夫	学研ナーシング サポート	333名
通信	情報セキュリティ 研修	教育研修会議	通信講義	情報リテラシーと情報 管理 個人情報について考え る	学研ナーシング サポート	317名
10月	災害医療研修①	防災ワーキング 教育研修会議	10月18日	神奈川県(当センター) が被災したら	精神看護 専門看護師 石田 正人	59名
11月	災害医療研修②	防災ワーキング 教育研修会議	11月1日	災害医療の原則	精神看護 専門看護師 石田 正人	61名
	災害医療研修③	防災ワーキング 教育研修会議	11月15日	災害時における 病院の対応	精神看護 専門看護師 石田 正人	60名
	CVPPP研修会	行動制限評価検討 会議	11月12日	行動制限に関する法律	救急A診療科 科長医師 茨木文博	72名
12月	災害医療研修④	防災ワーキング 教育研修会議	12月6日	DPATとは	精神看護 専門看護師 石田 正人	43名
	研究・QCに関す る発表会	教育研修会議	12月7日		県立病院QC選考会	84名
2月	医療安全フォーラ ム 感染防止研修② 医療安全研修② 医薬品安全管理研修 行動制限評価検討会議	医療事故防止対策 会議 感染防止対策会議 教育研修会議 他	2月7日～ 2月12日			288名

月	研修	担当	開催日	テーマ	講師	参加数
2月	衛生委員会研修	衛生委員会	2月27日	職員のストレスケアについて	ストレスケア科 科長医師 伊津野拓司	33名
	委託職員研修	教育研修会議	2月15日 2月20日	精神科病院に入院する とは ～入院から 退院までの流れ～	精神看護 専門看護師 石田 正人	40名
通信	感染防止研修①	感染防止対策会議	通信講義	これだけは覚えておきたい！スタンダードブ リコーション (標準予防策)	学研ナーシング サポート	393名

8 主な活動実績

○講師派遣等実績

氏名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
小澤 篤嗣 福田 伸一 瀬底 正有 石川 慶子 小倉 克行 加藤 充弘 坂井美智代 岡田 晋	グループワーク「医療観察法 指定通院における共通評価項目について」	独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター「平成30年度指定通院医療機関従事者研修会」
小澤 篤嗣	治療抵抗性統合失調症の治療	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
小林 桜児	「気づいて良かった」依存症患者の理解と対応～アルコール・薬物・ギャンブル～	高津区社会福祉協議会「第12回たかつ心のパワーアップセミナー」
小林 桜児	精神医学の基礎	横浜創英大学看護学部「平成30年度学生講義」
小林 桜児	アディクション支援について	旭川保護観察所「平成30年度第1回物質使用障害学習会」
小林 桜児	人を信じられない病～信頼障害仮説からみた回復について	平成30年度神奈川県薬物相談業務研修
小林 桜児	依存症の回復と医療の役割	京都ダルク15周年フォーラム
小林 桜児	依存症患者の現状と理解～アルコール・薬物・ギャンブル～	横浜依存症回復擁護ネットワーク「Y-ARAN 設立総会記念講演会」
小林 桜児	依存症概論	神奈川県立精神医療センター「平成30年度依存症セミナー」
小林 桜児	依存症支援の基礎を学ぶ～アルコール・薬物・ギャンブル～	大阪府こころの健康総合センター「平成30年度依存症対応関係機関職員研修」
小林 桜児	依存症の病態と薬物乱用防止教育のあり方	平成30年度兵庫県薬物乱用防止教室講習会
小林 桜児	ギャンブル等依存症を予防するには	大阪府・大阪市「ギャンブル等依存症予防セミナー」
小林 桜児	薬物依存症とは	文部科学省委託「平成30年度依存症予防教育推進事業依存症予防青森教室」
小林 桜児	「死にたい」気持ちを抱えた人への理解と対応	国立市「平成30年度ゲートキーパー研修〈初級〉」
小林 桜児	依存症は思春期から始まっている～信頼障害としてのアディクション～	神奈川県立茅ヶ崎高等学校定時制研修
小林 桜児	中毒性精神病	横浜市立大学医学部「平成30年度精神医学講義」
小林 桜児	自傷と自殺リスク～アセスメントと対応の実際～	大分県こころとからだの相談支援センター「自殺対策専門研修」
小林 桜児	アルコール依存症を中心にアディクションについて～信頼障害としてのアディクション～	第62回井之頭病院公開講演会「市民講座」
小林 桜児	薬物依存からの回復	法務省矯正研究所改善指導科第50回研修
小林 桜児	自傷行為と自殺企図～死にたい気持ちを抱えた人の理解と対応～	香川県精神保健福祉センター「平成30年度自殺予防のための対応力向上研修会」
小林 桜児	薬物依存症とは	文部科学省委託「平成30年度依存症予防教育推進事業依存症予防京都教室」

氏名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
小林 桜児	自傷と自殺～その評価と対応～	相模原市精神保健福祉センター「平成30年度教育研修事業」
小林 桜児	信頼障害仮説～依存症の生きづらさと回復のみちすじ～	横浜市精神障害者地域生活支援連合会「アディクション研修」
小林 桜児	子どもたちを虐待から守るために～事例検討会	国立市児童虐待防止研修
小林 桜児	自傷・自殺・過量服薬	宮崎県精神保健福祉センター「平成30年度自殺対策専門研修会」
小林 桜児	物質依存援助～総論	都立多摩総合精神保健福祉センター「平成30年度薬物・アルコール等問題研修」
小林 桜児	若者の生きづらさについて考える～信頼障害からみる自傷行為・摂食障害・アディクション～	大阪府こころの健康総合センター「平成30年度若年層自殺対策研修」
小林 桜児	自傷行為・自殺企図・物質乱用をくり返す解離性同一性障害の事例	平成30年度精神保健指定医研修会（更新・第61回）事例研究「パネルディスカッション」
小林 桜児	なぜ、依存症の回復に感情が大切なのか	神奈川県立精神医療センター「平成30年度第2回依存症セミナー SCOPセミナー」
小林 桜児	自傷・自殺・過量服薬に対する理解と対応について	川崎市百合ヶ丘障害者センター研修会
小林 桜児	地域で見守る依存症～人と人とのつながりが持つ力～	神奈川県社会福祉協議会「平成30年度民生委員児童委員テーマ別研修Ⅱ」
小林 桜児	自傷・過食嘔吐・依存症～その理解と対応～	京都健康教育サークル学習会
小林 桜児	薬物依存症の回復～家族ができること～	横浜ひまわり家族会研修会
小林 桜児	アルコール依存症の診断と治療の実際	精神科臨床薬学研究会関東ブロック講演会
小林 桜児	自傷・自殺・加療服薬	平成30年度アルコール依存症回復施設職員研修
磯崎仁太郎	思春期病棟	神奈川県立南養護学校「職員向け研修」
磯崎仁太郎	社会的引きこもりからみた思春期精神医療	大和市立光丘中学校「職員向け研修」
磯崎仁太郎	児童から思春期におけるひきこもりの理解と支援	新潟県精神保健福祉協会上越支部「平成30年度新潟県精神保健福祉協会上越支部 記念講演会」
磯崎仁太郎	心の病の理解	横浜市浦島丘中学校「教員向け研修」
磯崎仁太郎	自傷行為をするのはどんな子か	神奈川県立西湘高等学校「職員向け研修」
磯崎仁太郎	よろしくお願ひします！思春期病棟です	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
和田 直樹	精神障害からの回復と援助ー内因性精神病を中心にー	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
森脇 久視	精神科救急と当センターの役割	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
黒澤 文貴	依存症治療でわれわれの目指すもの	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
福生 泰久	近年のDPAT活動と課題	栃木県DPAT研修
福生 泰久	依存症者と ミルタザピン、アセナピン	Meiji Seika ファルマ株式会社社内勉強会
福生 泰久	災害医療概論とDPAT活動理念	山梨県DPAT研修
福生 泰久	災害医療概論とDPAT活動理念	静岡DPAT研修
福生 泰久	主な精神疾患と治療 等	上智大学総合人間科学部看護学科「疾病・治療学 V（精神医学・老年医学）」

氏名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
福生 泰久	主な精神疾患と治療 等	神奈川県立衛生看護専門学校「第一看護学科病態治療論Ⅴ」
伊津野拓司	症例検討	公益社団法人日本精神神経学会「第1回反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）講習会」
伊津野拓司	rTMSの実践	公益社団法人日本精神神経学会「第2回反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）講習会」
伊津野拓司	Vice Chairperson（副大会長）	18th CADP（the Course for Academic Development of Psychiatrists）
伊津野拓司 内田 靖子	3B病棟は“ストレスケア病棟”です	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
西村 康平	薬物乱用防止教室	神奈川県立新城高等学校
西村 康平	薬物乱用防止教室	寒川町立旭が丘中学校
西村 康平	依存症治療の実際	神奈川県立精神医療センター「平成30年度依存症セミナー」
津田 新菜	専門家に学ぶ“もの忘れ”と認知症②	NPO 法人アドバイザーネットワーク神奈川「“もの忘れ”予防と対策」
津田 新菜	認知症予防講座～認知症の進行を予防するには～	横浜市桂台地域ケアプラザ「平成30年度認知症予防講座」
大曾根しのぶ	飲酒事故防止～安全な飲み方のための講習会	慶應義塾硬式庭球同好会連盟講習会
大曾根しのぶ 井上 恭子	薬物依存者への対応	横浜保護観察所引受人会
大曾根しのぶ	依存症者本人への対応・社会資源	神奈川県立精神医療センター「平成30年度依存症セミナー」
大曾根しのぶ	薬物乱用防止教室	海老名市立海西中学校
大曾根しのぶ	薬物乱用防止教室	神奈川県立生田高等学校
大曾根しのぶ	薬物乱用防止教室	横浜市立釜利谷中学校
大曾根しのぶ	薬物乱用防止教室	桜陽高等学校
大曾根しのぶ	薬物乱用防止教室	城郷高等学校
大曾根しのぶ	薬物乱用防止教室	横浜ひまわり会家族フォーラム
楠山さなみ	ギャンブル依存相談	神奈川県立精神医療センター「平成30年度依存症セミナー」
脇 正弘	福祉医療相談科について	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
一瀬 絹	認知症予防講座～認知症の進行を予防するには～	横浜市桂台地域ケアプラザ「平成30年度認知症予防講座」
原澤 祐子	デイ・ケア、ショート・ケアの概要	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
城下絵里香	高度ケア病棟 作業療法士の役割	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
山口 美穂	作業療法プログラム	神奈川県立精神医療センター「平成30年度依存症セミナー」
渡會 蘭子	精神科救急入院料病棟における作業療法士の役割	東京工科大学
中里 容子	SCOPプログラム紹介	神奈川県立精神医療センター「平成30年度依存症セミナー」

氏名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
中里 容子	グループの理解とSCOP概要	神奈川県立精神医療センター「平成30年度第2回依存症セミナー SCOPセミナー」
中里 容子	4A病棟での集団精神療法	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
小林 真美	LAI導入における薬剤師の役割	第20回神奈川自立支援者懇談会
小林 真美	医薬品の適正使用について	大塚製薬株式会社「社内研修会」
小林 真美	服薬指導後シクレスト使用が継続している2例～院内処方調査から～	横浜南地区精神医学研究会
小林 真美	精神科における服薬指導	星薬科大学
馬場真佐美	元気に過ごすための食事管理	戸塚区富士見町内会館
阿部 由香	精神看護方法論Ⅱ 8時間	横浜中央病院付属看護専門学校
山田 直美	精神看護方法論Ⅱ 6時間	
佐藤 泰幸	精神看護方法論Ⅱ 4時間	
阿部 由香	看護研究発表会	
藤谷 健太	精神看護方法論Ⅰ 4時間	神奈川県立衛生看護専門学校第一看護学科
本田 幸一	精神看護方法論Ⅰ 4時間	
白石美由紀	精神看護方法論Ⅰ 8時間	
安藤 馨	精神看護学総論 2時間	
和田 拓子	精神看護方法論Ⅰ 12時間	神奈川県立衛生看護専門学校第二看護学科
八巻 倫世	精神看護方法論Ⅰ 6時間	
井上 美紀	精神看護学Ⅰ 4時間	神奈川県立よこはま看護専門学校
和田 拓子	精神看護学Ⅱ 6時間	
鹿野 哲夫	精神看護学Ⅲ 4時間	
千本松沢美	精神看護学Ⅱ 演習	
井上 美紀	精神看護学Ⅲ 4時間	神奈川県立平塚看護大学
白石美由紀	あなたの考える「思いを寄せる看護」とは？	
石田 正人	精神に障がいをもつ人の理解	東京都立荏原看護専門学校
安藤 馨	精神看護学Ⅱ 12時間	横浜市医師会聖灯看護専門学校第一看護学科
齊藤 充史	精神看護学Ⅱ 12時間	
佐藤 孝慈 中島 三貴 水町 泰江	精神看護学Ⅱ	神奈川県立保健福祉大学
落合 浩子	精神看護学Ⅱ 1時間	
高坂 彰	実習指導者講習会 実習指導の実際 16時間	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター
石田 正人	精神看護学Ⅲ	北里大学大学院看護学研究科
石田 正人	災害看護援助論	東京医療保健大学
石田 正人	看護師が行う退院支援コーディネート	学研 メディカルサポート
長 文枝	精神科病院リスクマネージャーのつぶやき	
石田 正人	支援者としての関わり方～関わり方の基本～	神奈川県立中井やまゆり園

氏名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
石田 正人	支援者としての関わり方～関わり方の基本 実践編～	神奈川県立中井やまゆり園
石田 正人	DPAT研修（神奈川、山梨、東京他）	厚生労働省委託事業 DPAT事務局
	大規模地震時医療活動訓練（宮崎）	
山形 晃正	かながわDPAT研修	
石田 正人	統合失調症の理解と支援	かながわ福祉サービス振興会
	～困難事例に挑む～高齢者の精神疾患の理解と対応	
佐藤 泰幸	小規模病院に勤務する看護職員研修	神奈川県看護協会
井上 美紀	精神科訪問看護に必要な薬物療法	
樋口 美佳	実地指導者研修～共に支え合う新人教育～①②	
嘉山 一壽	認定看護管理者教育課程セカンドレベル 医療経済論～看護サービスにおける経済性～	
佐藤 泰幸	行動制限最小化の看護	日本精神科看護協会神奈川県支部
嘉山 一壽	精神科看護における管理者研修	
佐藤 泰幸	こころの健康出前講座	
石田 正人	災害看護	
中谷 将	身体拘束の看護	
中谷 将	地域あげての青少年の見守り、家庭内での気を付けること	座間市立栗原中学校
中谷 将	職業人講話	座間市立南中学校
中谷 将	座間市及び大和市青少年指導員合同研修	座間市青少年指導員協議会
高橋 富子	専門コースⅠ	神奈川県立病院機構
白石美由紀	専門コースⅡ	
樋口 美佳 井口真理子	管理コースⅠ	
長 文枝	管理コースⅡ	
安藤 馨	パーソナリティ障害講演会	特定非営利活動法人 のびの会
安藤 馨	第21回摂食障害講演会	
安藤 馨	SSTについての勉強会	神奈川県民生福祉協会
安藤 馨	就労している精神障害者対象の ①就労SST ②友達付き合いとデートの技能	横浜メンタルサービスネットワーク
石田 正人	身体拘束のないケア	神奈川県立さがみ緑風園
山口二三子	薬物乱用防止教室	神奈川県立横浜栄高等学校
岡部真聖子	薬物乱用防止教室	神奈川県立茅ヶ崎高等学校
田島喜久江	薬物乱用防止教室	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校
安齊亜沙乃	薬物乱用防止教室	神奈川県立綾瀬高等学校
川口 礼子	薬物乱用防止教室	神奈川県立相原高等学校
田島喜久江	薬物乱用防止教室	神奈川県立城山高等学校
黒川由美子	薬物乱用防止教室	横浜市立芹が谷中学校
黒川由美子	薬物乱用防止教室	横浜市立いずみ野中学校

氏名	演題名・科目名等	派遣先名・学校名等
松永小百合	薬物乱用防止教室	横浜市立大鳥中学校
松永小百合	薬物乱用防止教室	鎌倉市立手広中学校
熊山 広明	薬物乱用防止教室	海老名市立今泉中学校
川口 礼子	薬物乱用防止教室	小田原市立泉中学校
岡部真聖子	薬物乱用防止教室	小田原市立国府津中学校
八巻 倫世	薬物乱用防止教室	小田原市立城北中学校
安齊亜沙乃	薬物乱用防止教室	小田原市立白山中学校
熊山 広明	薬物乱用防止教室	小田原市立城山中学校（1回）
大野 由里	薬物乱用防止教室	小田原市立城山中学校（2回）
田島喜久江	薬物乱用防止教室	平塚市立金目中学校
大野 由里	薬物乱用防止教室	平塚市立神明中学校
石田 正人	面接技法 等	一般社団法人 日本専門看護師協議会
石田 正人	精神疾患の関わり方	横浜市港南区日野南ケアプラザ
石田 正人	精神障害者の理解と対応	横浜市港南区「人権研修」
石田 正人	DPAT支援	DMAT関東ブロック訓練
石田 正人	災害時のメンタルヘルス	日本DMATロジ研修
石田 正人	訪問看護	日本看護協会
石田 正人	災害時のメンタルヘルス	神奈川県「DMAT研修」
石田 正人	うつと認知症の対応	横浜市港南区下永谷ケアプラザ
堀内恵美子	依存症外来看護	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
石山 恵子 井上 美紀 早乙女拓哉 伊藤 政明	スーパー救急病棟の看護（精神科救急入院科病棟）	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
中野 亮	クロザピン治療中の患者への看護	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
落合 浩子	訪問看護について	神奈川県立精神医療センター「平成30年度関係機関向け病院見学会」
山口二三子 堀内恵美子	依存症の看護	神奈川県立精神医療センター「平成30年度依存症セミナー」
井上 恭子	家族への相談支援	神奈川県立精神医療センター「平成30年度依存症セミナー」
板橋 登子	心理検査	神奈川県立精神医療センター「平成30年度依存症セミナー」
板橋 登子	SCOPの効果	神奈川県立精神医療センター「平成30年度第2回依存症セミナー SCOPセミナー」

○執筆

氏名	題名	掲載先
小林 桜児 板橋 登子 西村 康平	愛着障害としてのアディクション（翻訳）	日本評論社
小林 桜児	特集：アルコール・薬物依存症「依存症の精神病理～なぜやめられないのか」	自然科学社「医学と薬学」75巻6号
小林 桜児	レポート「依存症医療は今、ハームリダクションに切り替わっています」	医学書院「精神看護」2018年11月号
伊津野拓司	rTMSの原理と概要	アークメディア「臨床精神医学」47巻 8号
原澤 祐子	特集 デイケアからみえる精神科医療の未来「デイケアスタッフとして 作業療法士として」	NOVA出版「精神科医療ガイド2019」平成30年12月
中里 容子	特集 発達障害の精神療法と心の発達「思春期の発達障害児との集団精神療法」	金剛出版「精神療法」44巻2号
馬場真佐美	健康ひろば 「患者さんのための季節料理」	神奈川県看護協会「KANAGAWA看護だより」Vol. 184
白石美由紀	特集 睡眠の観察で看護を深める「不眠をはじめとする睡眠障害のアセスメントと看護ケアの基本」	精神看護出版「精神科看護」2018年9月号
中谷 将	医療者の声を聴く：身体拘束をするという経験②「身体拘束、その意識と判断」	日本精神保健福祉士協会「精神保健福祉」通巻115号
石田 正人	高齢者精神疾患の知識と対応（第5回）「せん妄の理解と対応」	日総研「臨床老年看護」2018年3・4月号
石田 正人	高齢者精神疾患の知識と対応（第6回）（最終回）「高齢者の意思決定支援」	日総研「臨床老年看護」2018年5・6月号
石田 正人	倫理と看護実践 「倫理的な話しあいとは倫理的感受性のリハビリである」	精神看護出版「精神科看護」2019年1月号
堀内恵美子 堀 幸子 小島 亮子	特集：アルコール・薬物依存症「依存症患者に対する看護の基本」	自然科学社「医学と薬学」75巻6号
荒川 絵美 石田 正人 白石美由紀	原著論文「申告飲水を導入した関わり 多飲水のある統合失調症患者の一例から」	日本看護協会「第48回 日本看護学会論文集」2018年4月
板橋 登子	特集：アルコール・薬物依存症「依存症患者の知的特性とコミュニケーション」	自然科学社「医学と薬学」75巻6号

○学会発表

氏名	論文（講演）名	学会等の名称
小林 桜児 板橋 登子 黒澤 文貴 吉杢 尚彦 福生 泰久 西村 康平	一般演題「ギャンブル障害患者における小児期逆境体験とストレス対処能力ーアルコール・薬物使用障害患者との比較」	第114回日本精神神経学会学術総会
小林 桜児 板橋 登子 黒澤 文貴 吉杢 尚彦 福生 泰久 西村 康平	シンポジウム「薬物依存症患者に対する精神療法とハームリダクション」	第114回日本精神神経学会学術総会
小林 桜児	シンポジウム「アルコール依存症の根底に潜む生きづらさと治療ツールARASHI（アラシー）」	第114回日本精神神経学会学術総会
小林 桜児	シンポジウム「自傷ーその理解と外来・病棟における対応についてー」	平成30年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
小林 桜児	一般演題「依存症入院病棟における音楽療法の意義」	平成30年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
小林 桜児	シンポジウム「成長を目指すアディクション治療ー信頼感・感情調節・愛着関係という視点からー」	第2回関東甲信越アルコール関連問題学会
森脇 久視 石田 正人 小林 真美 難波美歌子 赤坂 三恵 城下絵里香 稲本ゆかり 板橋 登子 青木 麻梨 岩井 一正	スライド発表「県の精神科医療の中核病院での質管理ーBADO（患者基本記録）導入2年を経て」	第7回日本精神科医学会学術大会
森脇 久視 茨木 丈博 村田 和浩 西村 康平 大山 浩司 浅沼 和哉 山本 舞 福井 英里 板橋 登子 和田 直樹 岩井 一正	一般演題「精神科救急病棟における入院長期化に影響を及ぼす因子ーBADO（患者基本記録）を用いた分析」	第26回日本精神科救急学会学術総会
吉田 勝臣 森脇 久視 茨木 丈博 伊津野拓司 福井 英里 山本 舞 面川 育 義井 真 上平 はるな 板橋 登子 岩井 一正	一般演題「当院におけるmECT施行群の特徴と治療アウトカムーF3群を対象としたBADO（患者基本記録）を用いた調査」	東京精神医学会第115回学術集会
黒澤 文貴 吉杢 尚彦 西村 康平 大曾根しのぶ 小林 桜児	一般演題「市販薬依存症からの回復20代女性の1症例を通して」	第114回日本精神神経学会学術総会

氏名	論文（講演）名	学会等の名称
福生 泰久	一般演題「過去4災害のDPAT活動の分析研究」	第114回日本精神神経学会学術総会
福生 泰久	委員会シンポジウム「精神保健指定医審査・研修等の見直しについて」	第114回日本精神神経学会学術総会
伊津野拓司	一般演題「Increase of sleep spindle density induced by rTMS for major depression」	The 2nd International Conference on Sleep Spindling and Related Phenomena
伊津野拓司	一般演題「反復性経頭蓋磁気刺激法によって大うつ病性障害の睡眠紡錘波密度が増加する」	第114回日本精神神経学会学術総会
伊津野拓司	一般演題「円皮鍼が気分障害患者のコルチゾール分泌を調節する」	第114回日本精神神経学会学術総会
伊津野拓司	委員会シンポジウム「反復経頭蓋磁気刺激の実際と留意事項」	第114回日本精神神経学会学術総会
伊津野拓司	一般演題「Increase of sleep spindle density induced by rTMS for major depression」	9th FAOPS (Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies) Congress
面川 育 森脇 久視 茨木 丈博 和田 直樹 小林 桜児 岩井 一正	一般演題「当院における過去10年間の措置入院患者の診断変遷」	第26回日本精神科救急学会学術総会
西村 康平 板橋 登子 福生 泰久 吉杵 尚彦 黒澤 文貴 小林 桜児	一般演題「依存症専門外来で性的マイノリティであることを自らカミングアウトした物質使用障害患者の臨床的特徴」	平成30年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
難波美歌子 石田 正人 稲本ゆかり 板橋 登子 森脇 久視 岩井 一正	一般演題「精神科病院における長期入院患者の退院促進要因の検討—BADOを用いた調査—」	第57回全国自治体病院学会
藤城 弘康 大曾根しのぶ 楠山さなみ 井上 恭子 西岡 恭子 板橋 登子	一般演題「外来SARPP 参加者の断酒と自助グループ参加について」	平成30年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
藤城 弘康 大曾根しのぶ 楠山さなみ 西岡 恭子 井上 恭子	一般演題「神奈川県立精神医療センターにおけるアルコール家族会」	平成30年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
中里 容子	自主ワークショップ「子どものグループを考える—施設に入所している子どもとの集団精神療法の実践を通じて治療構造を考える—」	第35回日本集団精神療法学会
中里 容子	テーマセッション「依存症専門病棟における活動集団療法—大人の治療に「遊び」を使う—」	第35回日本集団精神療法学会
中里 容子	自主ワークショップ「子どものグループを考える2—児童養護施設や児童心理治療施設で行われているグループの実践—」	第36回日本集団精神療法学会
中里 容子	テーマセッション「ワークブックを使ったグループが「心理学的になる」には？—依存症外来における感情焦点型プログラム(SCOP)の場合—」	第36回日本集団精神療法学会

氏名	論文（講演）名	学会等の名称
小林 真美	シンポジウム「向精神薬の適正使用について」	日本病院薬剤師会東北ブロック第8回学術大会
小林 真美	一般演題「嚙下ラウンドにおける他職種協働のあり方の検討—オリジナル嚙下評価ツール作成にむけて—」	第2回日本精神薬学会総会・学術集会
小林 真美	シンポジウム「思春期精神科医療における薬剤師の関わり」	第1回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum
小林 真美 岡田 景好 森脇 久視 岩井 一正	スライド発表「BADO（患者基本記録）を用いた当院の薬物治療についての現状評価—F2群を対象として（第2報）」	第7回日本精神科医学会学術大会
小林 真美	一般演題「Shared Decision Making（SDM）を用いた非定型持続性注射剤（LAI）導入前の薬剤師の関わり」	第28回日本医療薬学会年会
馬場真佐美	リレー発表「精神疾患患者の希望を“つなぐ”地域移行支援」	第18回日本健康・栄養システム学会大会
石田 正人 板橋 登子 森脇 久視 岩井 一正	スライド発表「精神科病院における入院長期化の要因と退院促進因子の検討—BADOを用いた調査—」	第7回日本精神科医学会学術大会
石田 正人	一般演題「平成29年度大規模災害医療活動訓練における精神科病院受入訓練—災害拠点精神科病院機能の運用と課題—」	第26回日本精神科救急学会学術総会
石田 正人 稲本ゆかり 板橋 登子 難波美歌子 森脇 久視 岩井 一正	一般演題「精神科病院における入院長期化の要因検討—BADOを用いた調査—」	第57回全国自治体病院学会
今村 加奈	一般演題「心理的变化により服薬行動変容が見られた患者への関わり～頓服薬の使用回数が減少した経過を動機づけ面接法に沿って振り返る～」	日本精神科看護協会 神奈川県支部 平成30年度 看護研究発表会
熊谷 啓子	一般演題「双極性障害の患者に初めて心理教育を行う看護師の困難と必要とする支援」	第25回日本精神科看護学会専門学術集会
加藤 充弘	一般演題「医療観察法病棟における入院継続を望む対象者の志向変化～退院に消極的な対象者へのスモールステップ式退院支援の取り組み～」	第25回日本精神科看護学会専門学術集会
堀内恵美子 堀 幸子 小島 亮子 大曾根しのぶ 楠山さなみ 藤城 弘康 井上 恭子 板橋 登子 小林 桜児	一般演題「依存症患者の初診受診率およびキャンセル率の調査～初診予約のあり方を一考する～」	平成30年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
板橋 登子 小林 桜児 黒澤 文貴 福生 泰久 吉裕 尚彦 西村 康平	一般演題「物質使用障害入院患者における初診時および退院時の不信感とストレス対処能力との関連」	第114回日本精神神経学会学術総会

氏名	論文（講演）名	学会等の名称
板橋 登子 小林 桜児 黒澤 文貴 福生 泰久 吉裕 尚彦 西村 康平 堀内恵美子 堀 幸子 小島 亮子	一般演題「依存症初診患者の基本情報及び心理尺度得点と6か月後予後」	平成30年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
板橋 登子 小林 桜児 黒澤 文貴 福生 泰久 吉裕 尚彦 西村 康平 山口二三子 松島 正明	一般演題「依存症入院患者の過剰適応傾向のタイプ分類と退院後の経過について」	平成30年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
井上 恭子 大曾根しのぶ 楠山さなみ 藤城 弘康 西岡 恭子	一般演題「依存症専門病院における家族教室①～薬物家族教室～」	平成30年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会

○研究費助成等

氏名	補助金名等	タイトル等
福生 泰久	厚生労働省「平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金」	「精神科医療提供体制の機能強化を推進する政策研究」 分担研究班「新しい精神保健指定医研修・審査のあり方に関する研究」
福生 泰久	厚生労働省「平成30年度厚生労働科学研究費補助金」	「災害派遣精神医療チーム（DPAT）の機能強化に関する研究」 分担研究班「過去4災害のDPAT活動分析、DPAT活動の指標に関する検討」
小林 真美	神奈川県公衆衛生協会「平成30年度調査研究助成金」	薬物療法を受けている精神疾患患者の身体状態に関する危険因子の予測
石田 正人	厚生労働省「平成30年度厚生労働科学研究費補助金」	「災害派遣精神医療チーム（DPAT）の機能強化に関する研究」 分担研究班「災害拠点精神科病院機能の検討に関する研究、熊本地震DPAT隊員へのアンケート分析、DPAT活動に必要な情報支援ツールの実用化」

Ⅱ 精神医療センター事務事業の状況

1 精神医療センター基本方針

1 神奈川県精神科中核病院として、高度な医療を提供します。

- 精神科救急医療システムの基幹病院として充実した救急医療を提供し、地域の医療機関と連携します。
- 依存症、ストレスケア、思春期、医療観察法の4つの分野で専門的な医療を提供します。
- 先進的な医療に関する臨床研究や、神奈川県の医療の将来を担う人材育成に取り組みます。

2 患者さんの思いを大切に、患者中心の医療を目指します。

- 患者さん参加のもとで治療計画を考え、多職種チームで支援します。
- インフォームド・コンセントを徹底し、患者さんの意思決定を尊重します。

3 みんなのちからで、安全な医療に取り組みます。

- 積極的な情報公開に努め、透明性の高い安全な医療を提供します。
- 患者さんやご家族とともに、安心して医療を受けられる療養環境を築きます。

4 地域との連携を深め、患者さんの社会復帰を支援します。

- 必要な入院をスムーズに受け入れるとともに、早期退院を目指して計画的な援助を行います。
- 関係機関との連携を密にし、在宅の患者さんの地域生活を支援します。
- 関係機関と連携し、地域における精神保健活動に協力します。

5 県立病院として健全な経営を目指します。

- 効率的で効果的な経営のあり方を追求し、自立した病院経営に努力します。

2 経理の状況

(1) 財務諸表

(ア) 貸借対照表

(平成31年3月31日)

【精神医療センター】

(単位：円)

科 目	金 額		
資産の部			
I 固定資産			
1 有形固定資産			
土地		6,366,349,560	
建物	7,076,369,598		
減価償却累計額	△ 1,470,387,725		5,605,981,873
構築物	316,980,800		
減価償却累計額	△ 87,148,793		229,832,007
器械備品	1,128,929,856		
減価償却累計額	△ 684,366,295		444,563,561
車両	6,724,507		
減価償却累計額	△ 2,189,474		4,535,033
有形固定資産合計		12,651,262,034	
2 無形固定資産			
ソフトウェア		20,612,275	
電話加入権		25,000	
無形固定資産合計		20,787,275	
3 投資その他の資産			
長期前払消費税等		270,661,176	
破産更生債権等	7,081,725		
貸倒引当金	△ 7,081,725		0
投資その他の資産合計		271,623,176	
固定資産合計			12,943,672,485
II 流動資産			
現金及び預金		52,765,470	
医業未収金	535,692,145		
貸倒引当金	△ 4,462,973		531,229,172
未収金		45,458,699	
たな卸資産		12,899,047	
前払費用		795,354	
その他		2,618,361	
流動資産合計			645,766,103
資産合計			13,589,438,588

(単位：円)

科 目	金 額		
負債の部			
I 固定負債			
資産見返負債			
資産見返補助金等	1,243,823,588		
資産見返物品受贈額	6,393,916		
建設仮勘定見返運営費負担金	13,023,149	1,621,118,495	
長期借入金		4,982,030,189	
引当金			
退職給付引当金	2,347,270,012	2,347,270,012	
リース債務		1,080,000	
固 定 負 債 合 計			8,951,498,696
II 流動負債			
寄附金債務		342,490	
一年以内返済予定長期借入金		305,806,128	
一年以内償還予定移行前地方債償還債務		53,180,000	
未払金		85,950,022	
一年以内支払予定リース債務		34,695,200	
未払費用		68,171,583	
預り金		12,783,280	
引当金			
賞与引当金	237,649,664	237,649,664	
流 動 負 債 合 計			798,578,367
負 債 合 計			9,750,077,063
純資産の部			
I 資本金			
設立団体出資金		4,602,023,080	
資 本 金 合 計			4,602,023,080
II 資本剰余金			
資本剰余金		203,517,000	
資 本 剰 余 金 合 計			203,517,000
III 繰越欠損金			
当期未処理損失		△ 966,178,555	
(うち当期総利益)		(159,638,796)	
繰 越 欠 損 金 合 計			△ 966,178,555
純 資 産 合 計			3,839,361,525
負 債 純 資 産 合 計			13,589,438,588

(イ) 損 益 計 算 書
(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

【構精神医療センター】

(単位：円)

科 目	金 額		
営業収益			
医業収益			
入院収益	2,663,942,664		
外来収益	432,322,882		
その他医業収益	67,844,417		
保険等査定減	△ 2,136,155	3,161,973,808	
運営費負担金収益		1,888,249,000	
補助金等収益		3,227,455	
資産見返運営費負担金戻入		22,660,788	
資産見返補助金等戻入		75,310,748	
資産見返寄附金戻入		151,548	
資産見返物品受贈額戻入		363,780	
営業収益合計			5,151,937,127
営業費用			
医業費用			
給与費	3,580,378,436		
材料費	258,744,101		
減価償却費	497,984,652		
経費	591,646,270		
研究研修費	8,317,504	4,937,070,963	
控除対象外消費税等		70,543,384	
資産に係る控除対象外消費税等償却		19,155,597	
営業費用合計			5,026,769,944
営業利益			125,167,183
営業外収益			
運営費負担金収益		37,404,000	
財務収益		134	
雑益		67,573,532	
営業外収益合計			104,977,666
営業外費用			
財務費用		70,306,907	
雑支出		49,745	
営業外費用合計			70,356,652
経常利益			159,788,197
臨時損失			
固定資産除却損		149,401	149,401
当期純利益			159,638,796
当期総利益			159,638,796

3 業務実績

(1) 各種指標

項目	計算方式	単位	平成30年度	平成29年度	対前年度比(%)	備考
病床数		床	323	323	100.0	
取扱患者数		人	166,453	167,313	99.5	
入院患者		人	107,631	108,856	98.9	
外来患者		人	58,822	58,457	100.6	
1日平均取扱者数		人	536.0	537.8	99.7	
入院患者	取扱入院患者数/年間日数	人	294.9	298.2	98.9	
外来患者	取扱外来患者数/年間外来診療日数	人	241.1	239.6	100.6	
病床利用率	取扱入院患者数/延病床数×100	%	91.3	92.3	98.9	
平均在院日数	入院延患者数/[(入院患者数+退院患者数)×0.5]	日	92.7	98.6	94.0	
入院外来患者比率	取扱外来患者数/取扱入院患者数×100	%	54.7	53.7	101.9	
医師・看護師1人当たりの取扱患者数						
医師	取扱患者数/医師延人数	人	19.8	18.3	108.2	
看護師	取扱患者数/看護師延人数	人	1.9	1.8	105.6	
職員数		人	344	350	98.3	期末人数
医師		人	23	25	92.0	期末人数
看護師		人	240	248	96.8	期末人数
その他職員		人	81	77	105.2	期末人数
病床100床当たりの職員数	全職員数/病床数×100	人	106.5	108.4	98.2	
医師	職員数/病床数×100	人	7.1	7.7	92.2	
看護師	職員数/病床数×100	人	74.3	76.8	96.7	
その他職員	職員数/病床数×100	人	25.1	23.8	105.5	
患者1人当たりの収益						
入院患者	入院収益/取扱患者数	円	24,747	24,656	100.4	
外来患者	外来収益/取扱患者数	円	7,321	7,307	100.2	
医師・看護師1人1日当たりの収益						
医師	医業収益/医師延人数	円	376,650	348,159	108.2	
看護師	医業収益/看護師延人数	円	36,096	35,097	102.8	
患者1人当たりの費用	医業費用/取扱患者数	円	29,660	28,783	103.0	
患者1人当たりの薬品費	薬品費/取扱患者数	円	991	1,085	91.3	
入院患者1人当たりの給食材料費	給食材料費/取扱入院患者数	円	743	712	104.4	
医業収益に対する費用比率	医業費用/医業収益×100	%	156.1	151.6	103.0	
給与費	給与費/医業収益×100	%	113.2	110.9	102.1	
材料費	材料費/医業収益×100	%	8.2	8.5	96.5	
経費	経費/医業収益×100	%	18.7	16.8	111.3	

4 患者の状況

(1) 外来患者の状況

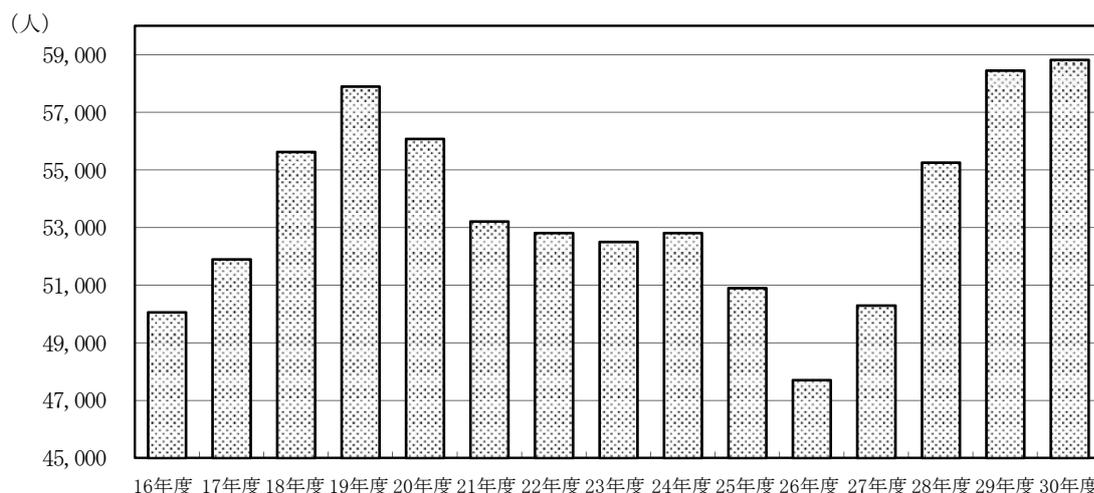
延患者数では365人増で対前年比0.6%増となっている。また、新患については138人増の対前年比7.9%増となっている。

ア 月別外来患者数

年度	月 区分	月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
30	新患	162	152	156	137	155	144	172	150	153	159	162	163	1,865
	再来	4,614	4,808	4,648	4,841	4,942	4,257	5,175	4,993	4,648	4,661	4,490	4,880	56,957
	延患者数	4,776	4,960	4,804	4,978	5,097	4,401	5,347	5,143	4,801	4,820	4,652	5,043	58,822
	一日平均	238.8	236.2	228.8	237.0	221.6	244.5	243.0	244.9	252.7	253.7	244.8	252.2	241.1
29	新患	147	161	153	138	151	132	154	143	127	143	129	149	1,727
	再来	4,665	4,679	4,822	4,643	5,116	4,555	4,992	4,834	4,741	4,517	4,377	4,789	56,730
	延患者数	4,812	4,840	4,975	4,781	5,267	4,687	5,146	4,977	4,868	4,660	4,506	4,938	58,457
	一日平均	240.6	242.0	226.1	239.1	239.4	234.4	245.0	248.9	243.4	245.3	237.2	235.1	239.6

(注) 精神科のほか、内科・歯科受診者を含む

イ 外来患者数の年次推移状況



ウ 病類別新外来患者数

年度	病類 (ICD) 区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計
		老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害									
30	男	38	8	64	23	43	102	176	194	8	41	18	4	52	771
	女	23	9	168	63	72	74	118	155	2	40	22	5	83	834
	計	61	17	232	86	115	176	294	349	10	81	40	9	135	1,605
	構成比	4	1	14	5	7	11	18	22	1	5	2	1	8	100
29	男	5	8	190	66	11	88	133	121	2	24	15	3	154	820
	女	0	4	60	27	2	72	131	217	11	30	12	8	99	673
	計	5	12	250	93	13	160	264	338	13	54	27	11	253	1,493
	構成比	0	1	17	6	1	11	18	23	1	4	2	1	17	100

(注) 新外来患者とは、精神科初診患者と6ヵ月以上通院していない再初診患者のこと

工 年齢別新外来患者数

年度	年齢 区分	年齢							計
		19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
30	男	137	130	133	192	108	81	53	834
	女	157	126	127	139	87	47	88	771
	計	294	256	260	331	195	128	141	1,605
	構成比	18.3	16.0	16.2	20.6	12.1	8.0	8.8	100
29	男	97	106	145	201	147	70	54	820
	女	114	140	119	120	92	40	48	673
	計	211	246	264	321	239	110	102	1,493
	構成比	14.1	16.5	17.7	21.5	16.0	7.4	6.8	100.0

才 地域別実外来患者数

居住地域	年度		居住地域	年度		居住地域	年度		
	30	29		30	29		30	29	
横 濱 市	4,016	3,722	横 須 賀 市	131	120	足 柄 上 郡	3	2	
	鶴 見 区	97	99	平 塚 市	44	42	中 井 町	1	1
	神 奈 川 区	150	134	鎌 倉 市	101	96	大 井 町	0	1
	西 区	106	110	藤 沢 市	210	196	松 田 町	0	0
	中 区	154	130	小 田 原 市	15	19	山 北 町	0	0
	南 区	641	612	茅 ヶ 崎 市	73	68	開 成 町	2	0
	港 南 区	750	678	逗 子 市	35	25	足 柄 下 郡	4	6
	保 土 ヶ 谷 区	267	257	相 模 原 市	48	49	箱 根 町	0	1
	旭 区	149	149	三 浦 市	18	14	真 鶴 町	0	0
	磯 子 区	274	267	秦 野 市	15	14	湯 河 原 町	4	5
	金 沢 区	219	207	厚 木 市	31	24	県 内 計	5,103	4,756
	港 北 区	100	99	大 和 市	50	49	東 京 都	136	135
	緑 区	70	60	伊 勢 原 市	5	9	埼 玉 県	9	9
	戸 塚 区	513	471	海 老 名 市	21	24	千 葉 県	13	8
	瀬 谷 区	72	70	座 間 市	20	15	群 馬 県	1	0
	栄 区	157	138	南 足 柄 市	7	6	栃 木 県	1	15
	泉 区	192	159	綾 瀬 市	18	20	山 梨 県	0	1
	青 葉 区	63	47	三 浦 郡 葉 山 町	4	8	静 岡 県	13	1
	都 筑 区	42	35	高 座 郡 寒 川 町	5	7	茨 城 県	3	4
	川 崎 市	211	204	愛 甲 郡	2	4	そ の 他 の 県	27	34
川 崎 区		45	45	愛 川 町	2	4	県 外 計	203	207
幸 区		28	33	清 川 村	0	0	住 所 不 明	0	0
中 原 区		32	35	中 郡	16	13	計	5,306	4,963
高 津 区		32	29	大 磯 町	12	10			
宮 前 区		34	25	二 宮 町	4	3			
多 摩 区		23	21						
麻 生 区		17	16						

(注) 新患・再来を含め、同一患者について一人としてカウントした数

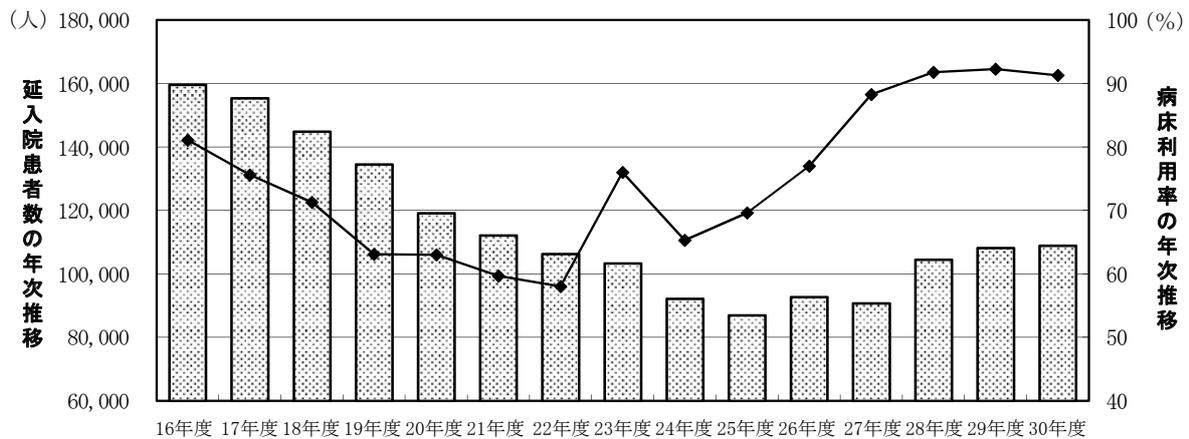
(2) 入退院患者の状況

平成30年度は、延患者数107,631人で前年度と比べ1,225人減で対前年度比1.1%減となっている。病床利用率は91.3%で対前年度比1ポイント減となっている。入院患者は前年度に比べ4.6%増となっている。入院形態は任意入院の構成比が対前年度比5.7ポイント増、医療保護入院が1ポイント減、措置入院が0.9ポイント減、鑑定入院は0.3ポイント減となっている。

ア 月別入退院患者数

年度	月 区分	月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
30	入院	99	96	96	106	90	91	99	104	91	104	97	83	1,156
	退院	93	101	100	109	90	96	89	110	90	102	94	92	1,166
	延患者数	9,086	9,375	8,955	9,086	9,069	8,661	9,224	8,772	9,080	8,978	8,170	9,175	107,631
	病床利用率	93.8	93.6	92.4	90.7	90.6	89.4	92.1	90.5	90.7	89.7	90.3	91.6	91.3
29	入院	99	94	89	98	89	87	90	100	91	96	80	92	1,105
	退院	100	85	93	93	88	107	82	97	98	87	87	86	1,103
	延患者数	8,989	9,224	9,075	9,349	9,433	8,984	9,221	8,873	8,997	9,021	8,310	9,380	108,856
	病床利用率	92.8	92.1	93.7	93.4	94.2	92.7	92.1	91.6	89.9	90.1	91.9	93.7	92.3

イ 延入院患者数及び病床利用率の年次推移状況



ウ 病類別新入院患者数

年度	病類 (ICD) 区分	脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計
		老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害									
30	男	3	7	121	18	38	187	76	25	0	13	16	0	15	519
	女	4	10	57	14	48	212	135	84	4	43	11	0	15	637
	計	7	17	178	32	86	399	211	109	4	56	27	0	30	1,156
	構成比	1	1	15	3	7	35	18	9	0	5	2	0	3	100
29	男	2	10	146	22	5	162	95	15	1	5	14	1	100	578
	女	2	2	71	13	1	152	103	65	3	9	6	0	100	527
	計	4	12	217	35	6	314	198	80	4	14	20	1	200	1,105
	構成比	0	1	20	3	1	28	18	7	0	1	2	0	18	100

工 病類別・年齢別入院患者数

年度	病類(ICD)		脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	年齢構成比	
	年齢	区分	老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害											
30	19歳以下	男					1	25	1	5		1	11		9	53	11.0	
		女					1	28	12	15	1	2	7		8	74		
		小計					2	53	13	20	1	3	18		17	127		
	20～29歳	男			7	2	11	22	3	9			6	2		4	66	16.7
		女		3	2	1	19	31	14	35	2	17	1		2	127		
		小計		3	9	3	30	53	17	44	2	23	3		6	193		
	30～39歳	男			12	3	16	24	11	1			2	2		1	72	15.9
		女			14	10	9	32	20	11		14	2				112	
		小計			26	13	25	56	31	12		16	4		1	184		
	40～49歳	男		1	28	8	7	45	18	5				1		1	114	20.5
		女		1	22	1	14	46	20	9			8	1		1	123	
		小計		2	50	9	21	91	38	14			8	2		2	237	
	50～59歳	男			44	2	3	48	19	3			2				121	19.2
		女			10	2	3	42	34	7	1	1				1	101	
		小計			54	4	6	90	53	10	1	3				1	222	
	60～69歳	男	1	2	25	3		22	15	1			2				71	10.8
		女	1	1	8			23	16	4						1	54	
		小計	2	3	33	3		45	31	5			2			1	125	
	70歳以上	男	2	4	5			1	9	1							22	5.9
		女	3	5	1		2	10	19	3		1				2	46	
小計		5	9	6		2	11	28	4		1				2	68		
計	男	3	7	121	18	38	187	76	25	0	13	16	0	15	519	100.0		
	女	4	10	57	14	48	212	135	84	4	43	11	0	15	637			
	計	7	17	178	32	86	399	211	109	4	56	27	0	30	1,156			
	構成比	1	1	15	3	7	35	18	9	0	5	2	0	3	100			
29	19歳以下	男						26	3	7			12		24	72	13.2	
		女						20	8	21			4		21	74		
		小計						46	11	28			16		45	146		
	20～29歳	男			6	3	2	19	15	1			1	1		18	66	12.2
		女			3	2	0	22	3	14		1	0		24	69		
		小計			9	5	2	41	18	15		2	1		42	135		
	30～39歳	男		1	15	5	0	28	13	1			3	0	1	20	87	16.2
		女		0	23	7	1	17	13	7		5	1	0	18	92		
		小計		1	38	12	1	45	26	8		8	1	1	38	179		
	40～49歳	男			43	8	3	30	20	4	1	0	1		19	129	20.6	
		女			17	2	0	34	20	9	3	1	0		13	99		
		小計			60	10	3	64	40	13	4	1	1		32	228		
	50～59歳	男		3	44	3		42	17	0			1	0	12	122	20.0	
		女		0	19	2		24	27	9		2	1		15	99		
		小計		3	63	5		66	44	9		3	1		27	221		
	60～69歳	男		3	35	3		12	18	1					4	76	12.2	
		女		0	9	0		27	18	2					3	59		
		小計		3	44	3		39	36	3					7	135		
	70歳以上	男	2	3	3			5	9	1					3	26	5.5	
		女	2	2	0			8	14	3					6	35		
小計		4	5	3			13	23	4					9	61			
計	男	1	1	146	25	7	180	80	20	0	4	6	2	97	578	100.0		
	女	2	2	39	12	7	155	100	62	0	16	1	1	123	527			
	計	3	3	185	37	14	335	180	82	0	20	7	3	220	1,105			
	構成比	0	0	17	3	1	30	16	7	0	2	1	0	20	100			

才 地域別実入院患者数

居住地域	年度		居住地域	年度		居住地域	年度		
	30	29		30	29		30	29	
横浜市	782	741	横須賀市	34	28	足柄上郡	2	2	
	鶴見区	26	22	平塚市	13	20	中井町	0	1
	神奈川区	33	41	鎌倉市	18	17	大井町	0	1
	西区	23	27	藤沢市	64	54	松田町	0	0
	中区	42	30	小田原市	6	7	山北町	1	0
	南区	99	107	茅ヶ崎市	26	21	開成町	1	0
	港南区	122	123	逗子市	5	9	足柄下郡	0	2
	保土ヶ谷区	50	49	相模原市	19	21	箱根町	0	0
	旭区	30	21	三浦市	3	3	真鶴町	0	0
	磯子区	51	49	秦野市	4	4	湯河原町	0	2
	金沢区	47	33	厚木市	6	11	県内計	1,104	1,050
	港北区	15	22	大和市	15	11	東京都	34	33
	緑区	15	17	伊勢原市	2	2	埼玉県	4	3
	戸塚区	98	90	海老名市	8	8	千葉県	1	4
	瀬谷区	13	15	座間市	6	5	茨城県	1	1
	栄区	30	28	南足柄市	0	4	群馬県	1	1
	泉区	55	39	綾瀬市	6	6	栃木県	0	0
	青葉区	18	13	三浦郡葉山町	1	0	静岡県	2	3
	都筑区	15	15	高座郡寒川町	3	3	その他の県	8	3
	川崎市	74	61	愛甲郡	1	2	県外計	51	48
川崎区		17	10	愛川町	1	2	住所不明	1	7
幸区		6	10	清川村	0	0	計	1,156	1,105
中原区		12	10	中郡	6	8			
高津区		9	8	大磯町	4	8			
宮前区		13	7	二宮町	2	0			
多摩区		13	12						
麻生区		4	4						

力 入院費負担区分別患者数（平成31年3月末現在在院患者一覧表）

年度	負担区分	健康保険法		国民健康保険法	生活保護法	精神保健福祉法	感染症法(第37条)	自費	その他	計
		本人	家族							
30	男	15	9	71	31	6	0	0	16	148
	女	3	30	59	28	3	0	0	11	134
	計	18	39	130	59	9	0	0	27	282
	構成比	6.4	13.8	46.1	20.9	3.2	0.0	0.0	9.6	100.0
29	男	17	17	77	34	3	0	1	21	170
	女	3	26	63	18	2	0	0	10	122
	計	20	43	140	52	5	0	1	31	292
	構成比	6.8	14.7	47.9	17.8	1.7	0.0	0.3	10.6	100.0

(注) 本表のその他とは、「臨床研究入院」「医療観察法」等の患者が含まれる

キ 入院形態別患者数

年度	形態	区分	月												計
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
30	任意	男	22	24	28	31	23	18	23	25	22	28	18	17	279
		女	25	34	30	25	25	34	33	33	24	31	33	27	354
		小計	47	58	58	56	48	52	56	58	46	59	51	44	633
		構成比	47.5	61.7	65.2	57.1	53.9	59.8	64.4	58.0	50.5	61.5	63.8	47.8	57.3
	医療保護	男	18	14	11	14	12	7	14	12	17	8	16	14	157
		女	14	15	15	16	15	16	18	23	15	21	19	13	200
		小計	32	29	26	30	27	23	32	35	32	29	35	27	357
		構成比	32.3	30.9	29.2	30.6	30.3	26.4	35.6	35.0	35.2	30.2	43.8	29.3	32.3
	措置	男	6	2	7	9	8	6	4	6	6	8	10	6	78
		女	13	7	5	10	6	9	4	4	4	8	1	6	77
		小計	19	9	12	19	14	15	8	10	10	16	11	12	155
		構成比	19.2	9.6	13.5	19.4	15.7	17.2	8.9	10.0	11.0	16.7	13.8	13.0	14.0
	鑑定	男							1						1
		女							0						0
		小計							1						1
		構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	応急	男	1				1	0	0						2
		女	0				0	1	1						2
		小計	1				1	1	1						4
		構成比	1.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
医観法入院処遇	男							0	1	1				2	
	女							1	0	2				3	
	小計							1	1	3				5	
	構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.5	
臨床研究	男				0									0	
	女				1									1	
	小計				1									1	
	構成比	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
計	男	47	40	46	54	44	31	42	44	46	44	44	37	519	
	女	52	56	50	52	46	60	57	60	45	60	53	46	637	
	計	99	96	96	106	90	91	99	104	91	104	97	83	1,156	
29	任意	男	25	22	20	28	29	22	23	23	26	23	21	31	293
		女	26	20	27	22	16	18	21	34	20	28	26	19	277
		小計	51	42	47	50	45	40	44	57	46	51	47	50	570
		構成比	51.5	44.7	52.8	51.0	50.6	46.0	50.6	57.0	50.5	53.1	58.8	54.3	51.6
	医療保護	男	17	9	20	19	16	15	19	14	19	18	15	12	193
		女	13	25	13	17	10	20	15	12	11	17	8	14	175
		小計	30	34	33	36	26	35	34	26	30	35	23	26	368
		構成比	30.3	36.2	37.1	36.7	29.2	40.2	37.8	26.0	33.0	36.5	28.8	28.3	33.3
	措置	男	9	11	5	6	6	6	5	6	7	3	4	11	79
		女	7	5	3	3	10	5	7	7	6	5	5	3	66
		小計	16	16	8	9	16	11	12	13	13	8	9	14	145
		構成比	16.2	17.0	9.0	9.2	18.0	12.6	13.3	13.0	14.3	8.3	11.3	15.2	13.1
	鑑定	男	0	1		1						0			2
		女	1	0		0						1			2
		小計	1	1		1						1			4
		構成比	1.0	1.1	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.4
	応急	男		1	0	0					2			0	3
		女		0	1	1					0			1	3
		小計		1	1	1					2			1	6
		構成比	0.0	1.1	1.1	1.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.5
医観法入院処遇	男	1			1	1				2	1	0	1	7	
	女	0			0	0				0	0	1	0	2	
	小計	1			1	1				2	1	1	1	9	
	構成比	1.0	0.0	0.0	1.0	1.1	0.0	0.0	2.0	1.1	1.0	1.3	1.1	0.8	
臨床研究	男					1	0				0			1	
	女					0	1				1			2	
	小計					1	1				1			3	
	構成比	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.3	
計	男	52	44	45	55	53	43	47	47	53	44	41	54	578	
	女	47	50	44	43	36	44	43	53	38	52	39	38	527	
	計	99	94	89	98	89	87	90	100	91	96	80	92	1,105	

ク 病類別・在院期間別在院患者数

年度	病類 (ICD)		脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比	
	期間	区分	老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害											
																		1年未満
30	1年未満	男		3	16	3	7	43	12		7	0	1		4	96	73.0	
		女		3	9	2	8	43	25		13	4	1		2	110		
		小計		6	25	5	15	86	37		20	4	2		6	206		
	1～2年	男			3	2			17	0						1	23	12.1
		女			0	0			8	2						1	11	
		小計			3	2			25	2						2	34	
	3～4年	男							6			0					6	3.9
		女							4			1					5	
		小計							10			1					11	
	5～9年	男					0		11								11	5.0
		女					1		2								3	
		小計					1		13								14	
	10～19年	男							7	1							8	3.9
		女							3	0							3	
		小計							10	1							11	
	20～29年	男							2								2	1.4
女								2								2		
小計								4								4		
30年以上	男							2								2	0.7	
	女							0								0		
	小計							2								2		
計	男		0	3	19	5	7	88	13	0	7	0	1	0	5	148	100.0	
	女		0	3	9	3	8	62	27	0	14	4	1	0	3	134		
	計		0	6	28	8	15	150	40	0	21	4	2	0	8	282		
	構成比		0.0	2.1	9.6	2.7	5.1	51.4	13.7	0.0	7.2	1.4	0.7	0.0	2.7	96.6		
29	1年未満	男	2	2	20	5	3	52	20	1		3			9	117	71.2	
		女	0	0	8	1	1	31	20	14		3			13	91		
		小計	2	2	28	6	4	83	40	15		6			22	208		
	1～2年	男							22	1	0					0	23	14.7
		女							17	1	1					1	20	
		小計							39	2	1					1	43	
	3～4年	男							9								9	3.4
		女							1								1	
		小計							10								10	
	5～9年	男					0		11								11	5.1
		女					1		3								4	
		小計					1		14								15	
	10～19年	男							6	1							7	3.8
		女							4	0							4	
		小計							10	1							11	
	20～29年	男							2								2	1.4
女								2								2		
小計								4								4		
30年以上	男							1								1	0.3	
	女							0								0		
	小計							1								1		
計	男	2	2	20	5	3		103	22	1	0	3	0	0	9	170	100.0	
	女	0	0	8	2	1		58	21	15	0	3	0	0	14	122		
	計	2	2	28	7	4		161	43	16	0	6	0	0	23	292		
	構成比	0.7	0.7	9.6	2.4	1.4		55.1	14.7	5.5	0.0	2.1	0.0	0.0	7.9	100.0		

ケ 病類別・転帰別退院患者数

年度	病類 (ICD)		脳器質性精神障害 (F0)		中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比		
	転帰	区分	老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害												
																		男	女
30	全快	男															0	0.0	
		女																	0
		小計																	0
	軽快	男		4	87	19	27	132	59	24	0	13	14			9	388	72.9	
		女		7	45	8	37	139	101	64	5	40	7			9	462		
		小計		11	132	27	64	271	160	88	5	53	21			18	850		
	未治	男		0	21	3	10	7	7	2		2	0			0	52	8.9	
		女		1	8	3	5	11	8	12		2	1			1	52		
		小計		1	29	6	15	18	15	14		4	1			1	104		
	転医	男		7	7	0	1	55	10	2	0	2	2			5	91	17.0	
		女		8	2	1	1	60	12	7	2	11	3			0	107		
		小計		15	9	1	2	115	22	9	2	13	5			5	198		
	死亡	男						0										0	0.1
		女						1										1	
		小計						1										1	
	鑑定了	男						1										1	0.1
		女						0										0	
		小計						1										1	
	医観法入院処遇終了	男						6	1									7	0.9
		女						2	1									3	
小計							8	2									10		
臨研終了	男							1									1	0.2	
	女							1									1		
	小計							2									2		
計	男		0	11	115	22	38	201	78	28	0	17	16	0	14	540	100.0		
	女		0	16	55	12	43	213	123	83	7	53	11	0	10	626			
	計		0	27	170	34	81	414	201	111	7	70	27	0	24	1,166			
	構成比		0.0	2.4	15.4	3.1	7.3	37.5	18.2	10.1	0.6	6.3	2.4	0.0	2.2	105.7			
29	全快	男															0	0.0	
		女															0		
		小計															0		
	軽快	男		0	3	117	16	4	123	62	20	1	4	12		49	411	74.2	
		女		1	2	54	10	1	138	97	49	2	3	7		43	407		
		小計		1	5	171	26	5	261	159	69	3	7	19		92	818		
	未治	男			1	25	6		7	11	0	0	0			10	60	9.5	
		女			0	8	3		4	5	12	1	3	1		8	45		
		小計			1	33	9		11	16	12	1	3	1		18	105		
	転医	男		0	5	6	1		54	18	2		1	1		10	98	14.8	
		女		1	0	2	1		29	10	5		4	0		13	65		
		小計		1	5	8	2		83	28	7		5	1		23	163		
	死亡	男							1									1	0.2
		女							1									1	
		小計							2									2	
	鑑定了	男								0						2	2	0.4	
		女								1						1	2		
		小計								1						3	4		
	医観法入院処遇終了	男							2	0						1	3	0.6	
		女							3	1						0	4		
小計								5	1						1	7			
臨研終了	男								2								2	0.4	
	女								2								2		
	小計								4								4		
計	男		0	9	148	23	4	187	93	22	1	5	13	0	72	577	100.0		
	女		2	2	64	14	1	175	116	66	3	10	8	0	65	526			
	計		2	11	212	37	5	362	209	88	4	15	21	0	137	1,103			
	構成比		0.2	1.0	19.2	3.4	0.5	32.8	18.9	8.0	0.4	1.4	1.9	0.0	12.4	100.0			

コ 病類別・在院期間別退院患者数 (30年度)

病類(ICD)	期間	区分	脳器質性精神障害 (F0)			中毒性精神障害 (F1)			統合失調症 (F2)	気分障害 (F3)	神経症性障害等 (F4)	生理的障害等 (F5)	人格障害 (F6)	精神遅滞 (F7)	てんかん (G4)	その他	計	構成比
			老人性精神障害	その他脳器質性精神障害	アルコール	覚醒剤	その他中毒性精神障害											
1年未満	男			10	114	22	38	184	75	28	0	16	15		14	516	96.7	
	女			16	55	12	43	202	122	81	7	53	11		10	612		
	小計			26	169	34	81	386	197	109	7	69	26		24	1,128		
1～2年	男			1				12	3	0		1	1			18	2.6	
	女			0				9	1	2		0	0			12		
	小計			1				21	4	2		1	1			30		
3～4年	男				1			3								4	0.3	
	女				0			0								0		
	小計				1			3								4		
5～9年	男							2								2	0.3	
	女							1								1		
	小計							3								3		
10～19年	男							0								0	0.1	
	女							1								1		
	小計							1								1		
20～29年	男															0	0.0	
	女															0		
	小計															0		
30年以上	男															0	0.0	
	女															0		
	小計															0		
計	男		0	11	115	22	38	201	78	28	0	17	16	0	14	540	100.0	
	女		0	16	55	12	43	213	123	83	7	53	11	0	10	626		
	計		0	27	170	34	81	414	201	111	7	70	27	0	24	1,166		
	構成比		0.0	2.3	14.6	2.9	6.9	35.5	17.2	9.5	0.6	6.0	2.3	0.0	2.1	100.0		

(3) 救急医療の状況

年度	区分	月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
30	取扱件数	(17) 29	(11) 23	(15) 22	(24) 35	(21) 29	(16) 27	(9) 22	(12) 27	(11) 22	(18) 25	(12) 20	(13) 20	(179) 301
	入院	(17) 24	(9) 18	(13) 16	(20) 26	(15) 20	(14) 19	(7) 14	(10) 19	(9) 13	(17) 22	(11) 18	(12) 18	(154) 227
	外来処置	(0) 5	(2) 5	(2) 6	(4) 9	(6) 9	(2) 8	(2) 8	(2) 8	(2) 9	(1) 3	(1) 2	(1) 2	(25) 74
29	取扱件数	(13) 25	(14) 24	(9) 26	(9) 26	(19) 26	(18) 28	(11) 22	(16) 25	(14) 27	(15) 30	(10) 17	(15) 24	(163) 300
	入院	(13) 19	(14) 17	(7) 17	(8) 18	(16) 19	(11) 18	(11) 13	(12) 17	(13) 17	(9) 17	(8) 9	(15) 22	(137) 203
	外来処置	(0) 6	(0) 7	(2) 9	(1) 8	(3) 7	(7) 10	(0) 9	(4) 8	(1) 10	(6) 13	(2) 8	(0) 2	(26) 97

(注) () は、精神保健診察件数で内数

5 業務の状況

(1) 看護

ア 病棟機能と看護職員配置（平成31年4月1日現在）

副院長兼看護局長 1名		副看護局長（業務担当）1名 （教育担当）1名				
病棟名	病棟機能		病床数	看護科長	看護職員	病棟技能員 看護補助者
2 A	身体ケア	閉鎖病棟	35（準保護室 11）	1	20	3
			結核病床（2）			
2 B	依存症	開放病棟	45（準保護室 7）	1	20	1
3 A	地域移行支援	閉鎖病棟	40（準保護室 6）	1	19	1
3 B	ストレスケア	開放病棟	30（準保護室 3）	1	16	1
4 A	高度ケア	閉鎖病棟	40（保護室 6・準保護室 6）	1	23	1
4 B	思春期	閉鎖病棟	30（保護室 1・準保護室 6）	1	20	1
5 A	救急	閉鎖病棟	30（保護室 10・準保護室 2）	1	30	1
5 B	救急	閉鎖病棟	40（保護室 4・準保護室 8）	1	25	1
F	医療観察法病棟	閉鎖病棟	33	1	42	1
小計			323（稼動病床数）	9	215	11
外来				1	12	1
医療安全推進室				1		
訪問看護科					4	
地域医療連携室					2	
デイ・ケア					2	
患者サポートセンター					1	
看護教育科					2	
看護局					1	
育産休・他					10	
合計			323	11	249	12

イ 看護局目標

1. 看護局ミッション

患者さんに寄り添い、自己決定・自立を支援し、患者さんと共に可能性にチャレンジします。

2. 看護局ビジョン

- 1) 患者さんやご家族の尊厳および人権を尊重し、患者さんの意思決定を支援します。
- 2) 精神科看護の専門性を追求し、患者さんやご家族に信頼される質の高い看護を提供します。
- 3) 患者さんの社会生活を支えるため、チーム医療の推進者としての役割を發揮します。
- 4) 看護の本質を追求し、誇りとやりがいを持てる人材を育成します。

3. 平成30年度 看護局目標

- 1) すべては患者さんのために ～その人らしい生活を支援します～
- 2) すべては組織のために ～柔軟な組織づくりに貢献します～
- 3) すべては私たちの元気のために ～互いを尊重し一緒に考えます～

ウ 平成30年度看護局目標評価

1 すべては患者さんのために ～その人らしい生活を支援します～

1) 地域で生活する人としてのアセスメント力の向上と支援

患者情報シートや精神科クリニカルパスを活用し、患者の病状だけでなく生活能力やストレス対処能力のアセスメントの向上に努めた。また、より患者の状況に合わせた治療プログラムの新規作成や見直しを行い、回復や通院の継続に向けて援助した。地域施設の見学研修を26名の看護師が受講しており、地域支援の現状を知り退院後の生活に視点を広げることができていた。

2) 多職種チームで協働する退院支援の実施と通院継続の支援

多職種カンファレンスやクライシスプランを実施し、患者と目標を共有しながらチームで退院支援を行った結果、5年以上の入院患者2名が退院できた。また、PWSと連携して退院前に自宅を訪問したり、外来看護師が退院前病棟訪問を実施して地域移行を推進した。退院後初回受診では、外来看護師が患者に意図的に声掛けをしながら、病状や生活状況を把握し受診の継続につなげている。更に、訪問看護や外来看護師による電話相談で患者の生活を丁寧に支援した。再入院率は前年度と同等（3カ月以内の再入院率13.7%）であった。

3) 行動制限ラウンドを徹底し、隔離・身体拘束の最小化を図る

月1回の病棟ラウンドと検討会議を行い、行動制限が長期化している患者について多職種で検討した。患者の持っている可能性を丁寧に話し合い、多角的に意見を交わすことで新たな方向性を考えることにつながっている。今年度は、行動制限マニュアルの見直しも行った。

2 すべては組織のために ～柔軟な組織づくりに貢献します～

1) 病棟間の連携を図り病床運営の効率化を図る

緊急入院患者を断らず、患者の特性に合わせて病床を運用するために、ベッドコントロールの体制づくりに取り組んだ。毎日、ベッドコントローラーと看護科長によるミーティングを開き、空床や患者の情報を共有し入院を受け入れるために調整を図った。また、患者の状態に応じて急性期病棟から亜急性期や慢性期、専門病棟への転棟調整を積極的に行った。結果、救急システム入院を断ることはなく、地域からの即日入院にも対応できるようになってきている。平均在院日数は短縮しているが前年度並みの病床利用率を維持している。病棟間の業務量の偏りを補完するためにリリーフ（セクション間応援）体制をとり、看護局全体で補完体制ができつつある。

表1 入院医療の状況

項目	平成30年度	平成29年度
救急患者入院件数	223件	216件
救急システム入院患者数	(190件)	(173件)
病床利用率	91.6%	92.3%
平均在院日数	92.7日	98.6日

() は救急入院患者数の内数

2) 重大事故未然防止への取り組み

内服薬に関連するヒヤリ・ハットの減少に取り組んだ。内服薬に関連した報告件数は前年度比110%に増加しているが、報告全体に占める割合は29%と前年度と同様であった。レベル0～1が93.7%を占め、小さな事象でも報告する意識は高くなってきている。しかし、患者誤認による与薬間違いが前年度の1件から10件に増加し、与薬の基本を遵守せずに発生したケースが多かった。

誤嚥・窒息に関する件数が、前年度の4件から8件に増加している。命にかかわる重大事故につながるリスクが

高く、入院時のアセスメントシートの見直しや日常の観察について対策を検討した。

3 すべては私たちの元気のために ～互いを尊重し一緒に考えます～

1) 看護学生実習受け入れ態勢の充実

14校、延べ2,656名の看護学生を受け入れた。ウエルカムボードを用いて学生の緊張を和らげ、丁寧に関わる実習指導は好評であった。プロセスレコード検討会での支援は、学生の患者の理解や自分自身の感情の気づきにつながっていた。

2) 看護補助者業務拡充

看護補助者業務マニュアルを変更した。また、毎月1回研修会を開催し、看護ケアの根拠と正しい技術を習得し患者ケアの充実につなげた。

3) 暴力防止対策

患者から職員に対する暴力が42件（前年度32件）発生している。看護科長会議では、「職員を守り安心して働く職場環境づくり」という視点で暴力対策を検討した。看護局の発信により院内に暴力防止ポスターを掲示した。また、暴力発生時の対応手順を作成し、その後の速やかな対応につながっている。

平成30年度 院内教育研修実施状況

	研修名	目的	研修日	時間	方法	対象者	人数
採用時	採用時研修	1. 精神医療センターの概要を理解し、組織・環境・業務への適応を図る 2. 専門職業人としての自覚を促す	4/2(月) 4/3(火) 4/5(木) 4/6(金) 4/9(月)	5日間 8:30-17:15	・講義 ・演習 (輸液管理/吸引/静脈血採血、筋肉注射) ・病院見学	平成30年度新採用者、転入者、前年度採用者、交流研修者他	5
支援プログラム	基礎技術研修① (精神科看護技術)	緊急時の精神科看護技術を学ぶ	4/20(金)	3時間15分 14:00-17:15	・講義 ・デモンストレーション ・演習	平成30年度新採用者、その他看護科長が認めた者	4
	基礎技術研修② (救急蘇生法)	看護者として必要な急変時の基礎的対応を学ぶ。	6/5(火)	2時間45分 14:30-17:15	・講義 ・シミュレーション ・演習	平成30年度新採用者、その他看護科長が認めた者	4
	フォローアップ研修	入職してからの様々な思いや看護を仲間と共有し、精神医療センターの看護師としての今後の看護実践への活力につなげる。	6/1(金)	1時間15分 16:00-17:15	・GW	平成30年度新卒新採用者	4
ステップ I	看護倫理 I (看護専門職としての倫理) 院外公開	看護師としての倫理的感受性を育む	6/20(水)	3時間45分 13:30-17:15	・講義 (公開) ・GW	ステップ I を申請するもの	2 (1)
	看護過程 I (看護理論の理解)	V. ヘンダーソンの看護論を学習し、看護実践のための観察・判断能力を養う	9/6(木)	3時間45分 13:30-17:15	・講義 (公開) ・GW(ペーパーセッション)		2
			10/23(火)	2時間15分 15:00-17:15	・GW(ペーパーセッション)		
チームメンバー研修	メンバーシップについての理解を深める	12/18(火)	3時間45分 13:30-17:15	・講義 ・ワーク	2		
ステップ II	看護倫理 II (精神科看護と倫理) 院外公開	精神科看護における倫理的感受性を育む	6/26(火)	1時間45分 15:30-17:15	・講義 (公開)	ステップ I 以上の者または看護科長が認める者	12
			7/17(火)	3時間15分 14:00-17:15	・GW ・セクション発表		
	リーダーシップ I (チーム医療におけるリーダーシップ)	リーダーシップを発揮できる能力を養う。	9/13(木)	3時間45分 13:30-17:15	・講義 ・GW (カード法) ・研修後セクション報告会		11

研修名		目的	研修日	時間	方法	対象者	人数
ステップII	看護過程II (理論を活用した看護過程の展開)	受け持ち患者への個別性を踏まえた看護過程を展開する。	11/1(木)	3時間45分 13:30-17:15	・GW	ステップI以上の者 または看護科長が認める者	14
			12/13(木)	3時間45分 13:30-17:15	・GW		
	地域連携研修I (ピア・サポーター)	地域で生活する患者の思いを知り、日々の看護に役立てる	10/26(金)	3時間45分 13:30-17:15	・講演 ・GW		9
ステップIII	地域連携研修II	1) 社会における精神科医療の動向を知る 2) 病院と地域との連携を知り、看護実践に活かす方法を考えられる	7/2(月)	1日 8:30 ~ 17:15	・施設見学	ステップII以上の者 または看護科長が認める者	17
			7/3(火)	3時間45分 13:30 ~ 17:15	・講義 ・GW		
	リーダーシップII	リーダーシップ能力を発揮し、チームメンバーと協働する	6/11(月)	3時間45分 13:30-17:15	・講義、GW		12
			7/27(金)	2時間45分 14:30-17:15	・GW		
			12/3(木)	3時間15分 14:00-17:15	・発表会		
	看護過程III (看護理論の活用①)	日々の看護実践を振り返り、情報や判断の根拠を論理的思考によって明らかにする能力を培う	6/21(木)	2時間15分 15:00-17:15	・講義	14	
			7/9(月)	3時間45分 13:30-17:15	・GW		
			9/25(火)	3時間45分 13:30-17:15	・ケーススタディ発表		
	教育指導研修I	教育の基本を学び、後輩指導や学生指導の場面で実践する	9/28(金)	3時間45分 13:30-17:15	・講義 ・GW	8	
			12/10(月)	3時間45分 13:30-17:15	・GW		
ステップIV	看護過程IV (看護理論の活用②)	看護理論を用いて、専門的知識と自己の経験的知識を統合し、精神看護の理解を深める	9/11(火)	1時間45分 15:30-17:15	・オリエンテーション ・講義	ステップIII以上の者 または看護科長が認める者	5
			10/18(木)	3時間15分 14:00-17:15	・GW		
			12/4(火)	1時間45分 15:30-17:15	・発表会		
	教育指導研修II	講義を通して自己の実践を意味づけし、伝える力を養う	6/29(金)	3時間45分 13:30-17:15	・講義	7	
			7/24(火)	3時間45分 13:30-17:15	・GW		
			11/5(月) 11/6(火)	3時間45分 13:30-17:15	・講義の実施 ・振り返り		
	看護研究	日常の課題を研究的視点でとらえ探求し実践に活かす	5/7(月)	2時間45分 14:30-17:15	・講義	ステップIII以上の者 または看護科長が認める者 *その他平成30年度看護研究に取り組む者	7
			6・10・12月：外部講師指導 6月中旬：研究計画書提出 1月中旬：発表抄録提出		・外部講師による指導 3回		
			2/22(金)	2時間15分 15:00-17:15	・発表会 【院外発表必須】		

研修名		目的	研修日	時間	方法	対象者	人数
ステップⅣ	管理研修（院内）	看護管理に必要な基礎知識を学び、セクションの管理課題について積極的に取り組む	5/25(金)	3時間45分 13:30-17:15	・講義	ステップⅢ以上の者 または看護科長が認める者	5
			6/25(月)	2時間15分 13:30-15:45	・GW		
			7月～10月 適宜	1日 適宜	・他部署での研修		
			10/2(火)	1時間45分 15:30-17:15	・GW		
ステップⅤ	教育活動	ポイント制 24年度以降の研修ポイントから適応する。 *累積50ポイントで申請ができる。 教育活動・研究活動の双方は必ずポイントをとる。 ただし、10ポイントは看護研究を院外発表することにより取得する。				ステップⅣ以上の者 または看護科長が認める者	1
	研究活動						1
	管理研修（院外）		セクション看護科長とキャリア面接をし、管理課題を明確にする。この管理課題を基に他施設などで研修を行なう				
役割研修	新任研修	主任としての認識を深め、自己の役割に積極的に取り組むための能力を養う。	4～5月	1日	シャドウイング (所属病棟 看護科長)	平成30年度新任看護師	4
			5/11までに (各セクション で実施)	1日			
			5/14(月)	2時間15分 15:00-17:15	・講義 ・GW（カード法）		
	プリセプターⅠ	プリセプターシップについて理解し、プリセプターとしての役割行動につなげる	H31年 2/1(金)	3時間45分 13:30-17:15	・講義 ・GW	平成31年度プリセプター担当者	6
	プリセプターⅡ	プリセプティとの関わりを振り返り、今後について考える	6/4(月)	2時間00分 15:00-17:00	・GW	平成30年度プリセプター担当者	3
	実習指導者研修 (会議の時間を使用)	実習指導者としての役割と関わりについて学習し、今後の指導の手がかりを得る	5/31(木)	1時間15分 16:00-17:15	・GW	平成30年度実習指導者会議メンバー、または看護科長が認めた者	12
10/25(木)			2時間15分 13:30-15:45	・GW	20		
病棟技能員研修・ 看護補助者研修	効率的な業務運営と良質な業務の実践を行う	5月～ H31年1月 13回(火)	30分 14:30-15:00	・講義	病棟技能員 看護補助者	12	
その他	セクション間交流研修	他部署の看護を体験し、自セクションの看護を振り返る機会とする	随時 随時申請可 (研修者による)	1～5日	・シャドウイング（所属看護科長）	研修を希望するもの、または看護科長が認めたもの	4
	静脈注射研修	医師の指示に基づいた静脈注射を安全に実施するために必要な知識・技術を習得する	7/4(水) 7/20(金) 8/24(金)	半日×2 プログラムによる	・講義 ・演習 ・試験（筆記、技術）	看護師が行う静脈注射プログラム規定による	8
講演等	認定看護師 公開講義	①精神看護学実習におけるプロセスレコードの目的と指導のポイント ②精神科の歴史と行動制限 ③精神科訪問看護の連携	①6/28(木)	①17:30-19:00 ②17:30-18:30 ③17:30-18:30	・講義	全職員 院外看護職員	34
			②9/5(水)				17
			③1/17(木)				24
	外部講師講演会	アンガーマネジメント	11/27(火)	2時間 17:30-19:30	・講義	全看護職員	27
	看護研究発表会	看護研究活動を通して得た成果を発表し相互の学びとする	H31年 2/22(金)	3時間45分 13:30-17:15	・発表会	全看護職員	6
伝達講習会	院外研修の報告を受け、自己研鑽への動機づけとする	H31年 3/8(金)	1時間45分 15:30-17:15	・講習会	全看護職員	5	

平成30年度 学会・院外研修参加実績

主催	学会名・研修名	開催地	開催日	参加者
神奈川県立 病院機構本部	新採用職員研修	県内	4/5	4
	看護職員研修 医療安全	県内	6/7・10/25	2
	看護職員研修 看護倫理・臨床倫理	県内	5/24・9/27	2
	看護職員研修 人材育成	県内	6/28・10/19	3
	看護職員研修 問題解決・リーダーシップ	県内	6/8・10/26	3
	医療メディエーション研修	県内	12/19～20	3
保健福祉大学実践教育センター	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	県内	4/9～9/30	1
	看護実習指導者講習会	県内	5/26～11/30	1
	医療安全管理者養成研修	県内	10/21～2019/2/2	1
県立病院交流研修	足柄上病院	県立病院	10/1～2019/9/30	1
	循環器呼吸器病センター	県立病院	12/3～4	1
	こども医療センター	県立病院	9/6～7	1
横浜市立大学	保健師助産師看護師実習指導者講習会	県内	8/1～11/30	1
山梨県立大学 看護実践開発研究センター	認定看護師教育課程「認知症看護」	山梨	6/1～12/21	1
神奈川県看護協会	医療安全管理者養成	県内	11/26～12/7	1
	災害看護マネージメント	県内	10/15～16	1
	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	県内	10/4～2019/3/1	1
日本精神科看護協会 (神奈川県支部)	精神科初任者研修(精神科経験1～3年)	県内	6/8.11	3
	精神看護における管理者研修	県内	7/16	1
	アンガ・マネジメントの理解	県内	8/7	2
	精神科における退院支援の看護	県内	9/14	2
	災害看護	県内	10/18	2
	統合失調症の理解と基本的な看護	県内	11/19	1
日本精神科看護協会	発達障害の理解とケア	東京	10/1	1
	パーソナリティ障害の理解とケア	東京	10/2	1
	アディクションの理解とケア	東京	10/4	1
	地域包括ケア①②③	東京	9/1～3	1
神奈川県看護協会	A群 やってみよう学ぶKYT	県内	6～7月	1
	A群 看護管理I	県内	6～7月 9～10月	2

主 催	学会名・研修名	開催地	開催日	参加者
国立精神・神経医療研究センター (精神保健に関する技術研修)	第20回 薬物依存臨床看護等研修	東京	9/4~7 (4日間)	1
	第10回 認知行動療法の手法を活用した 薬物依存症に対する集団療法研修	東京	11/19~21 (3日間)	1
国立精神・神経医療研究センター (認知行動療法センター)	不安症の認知行動療法	東京	H31. 1.1 8	1
厚生労働省 国立病院機構 久里浜医療センター	アルコール依存臨床看護研修①	県内	6/18~22	1
	アルコール依存臨床看護研修②	県内	11/12~16	1
	医療安全管理研修	県内	9/3	1
	ギャンブル依存症	県内	2/21~22	1
神奈川県	薬物乱用防止教室指導者研修会	県内	8/1. 20	2
神奈川県精神病院協会	精神科看護技術研修会	県内	1/29~2/1	2
DPAT事務局	DPAT先遣隊研修	東京	7/23~25	1
医療観察法関連職種研修会事務局	第14回 医療観察法関連職種研修会	大坂	9/28.29	6
厚生労働省国立病院機構	指定入院医療機関従事者研修会 (初級/上級)	東京	10/4. 5	6
よこはま看護専門学校	実習指導者研修会	県内	7/24	1
横浜市病院協会 看護専門学校	実習指導者研修会	県内	8/20	4
肥前精神医療センター	強度行動障害を持つ発達障害医療研修会	東京	8/30. 31	1
横浜市病院協会	横浜市看護職員認知症対応力向上研修	県内	10/3~12/5 (うち3日)	2
SST普及協会	SST小児領域	東京	3/9~10	1
福井大学	PNS研修	福井県	7/2~4	4
日本精神科看護協会 神奈川県支部	支部看護研究発表会	県内	10/3	1
日本精神科看護協会	第24回 日本精神科看護学会専門学会	香川	10/26~27	2
精神科救急学会	第26回 日本精神科救急学会	沖縄	10/11~12	2
全国自治体病院協議会	第57回 全国自治体病院学会	福島	10/18~19	2
日本うつ病学会	第15回 日本うつ病学会・ 第17回 日本認知療法学会	東京	7/27~28	1
日本アディクション看護学会	第17回 日本アディクション看護学会 学術集会総会	長崎	9/1~2	1
日本CNS看護学会	第25回 日本CNS看護学会	東京	6/2	1
東京女子医科大学看護学会	第14回 学術集会	東京	10/6	1
合計				94名

平成30年度 見学・実習（受け入れ）等実績

1. 見学・実習（受け入れ）

項 目	対 象 者	人 数	実施月
神奈川県立保健福祉大学 保健医療福祉論Ⅰ・現場訪問	大学生	16名	8月
県立病院（交流研修）	看護師	1名	8月
県立病院（交流研修）	看護師	1名	10月
県立病院（交流研修）	看護師	1名	1月
県立病院（交流研修）	看護師	1名	1月
職場体験	中学生	12名	7月
職場体験	中学生	3名	10月
職場体験	中学生	4名	2月
病院研修	看護学校教員	3名	7月
病院研修（看護実習指導者講習会）	看護師	3名	9・10月
病院研修	大学教員	2名	10月
病院見学	看護学生・看護師	43名	通年
インターンシップ	看護学生・看護師	35名	3月

2. 交流研修実施状況

研 修 施 設	日 程	実施地	人数
神奈川県立足柄上病院	10/1～2019/9/30	県内	1
神奈川県立こども医療センター	9/6～7	県内	1
神奈川県立循環器呼吸器病センター	12/3～4	県内	1
国立精神・神経医療センター	2/27	東京	1
岡山県立精神医療センター	2019/3/25～27	岡山	1
茨城県立こころの医療センター	2019/3/13～15	茨城	1

(2) 作業療法 (OT)

当院の作業療法は、日常生活の回復を図り社会適応や自律を促すために様々なプログラムを実施している。作業療法科では安心していただける居場所の提供を基本に、参加患者の状態により活動プログラムを考慮し、参加患者の今後の目標を意識して治療に当たっている。その内容については表(ウ)を参照されたい。

作業療法科の人員構成は、作業療法士8名(内2名が医療観察法病棟の専従)である。1つの病棟を2人の作業療法士が担当する病棟担当制を取り、作業療法士1人あたり2～3病棟を担当している。

作業療法科では、各病棟作業療法と療法エリアでの作業療法プログラム実施に加え、集団プログラムへの参加が困難な方や、生活および身体機能の評価や訓練が必要な方に対して個別の関わりを行っている。今年度11月からは『趣味空間ふらっと』を開始し、他病棟の参加者と交流したり簡単な作業を楽しんだりする時間を増やしてもらうことを試みている。

教育関連では、作業療法士養成校の4年生2名を受け入れた。また、養成校への講師派遣を行い、未来の作業療法士育成を図っている。

なお、管理料に含まれているため4B病棟(思春期病棟)および医療観察法病棟では精神科作業療法を算定していないが、参考値として以下のデータには組み込んでいる。

(ア) 患者受け入れ状況

a OT実施人員

(単位:人)

区分 年度	実 人 員					
	新 規		継 続		計	
	男	女	男	女	男	女
30	589		181		770	
	287	302	105	76	392	378
29	621		199		820	
	292	329	116	83	408	412
対前年度比 (%)	94.8		91.0		93.9	
	98.7	91.8	90.5	91.6	96.1	91.7

b 患者別受け入れ状況

区分 年度	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4	計
	症状性を含む器質性精神障害	精神作用物質使用による精神および行動の障害	統合失調症	気分(感情)障害	神経症性障害	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	成人の人格および行動の障害	精神遅滞	心理的発達の障害	特定不能の精神障害	てんかん	
30	6	213	286	135	54	4	37	18	8	6	3	770
29	13	216	312	163	53	4	37	8	2	7	5	820
対前年度比 (%)	46.2	98.6	91.7	82.8	101.9	100.0	100.0	225.0	400.0	85.7	60.0	93.9

c 年齢別受け入れ状況

区分 年度	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計	平均年齢
30	51	92	141	168	173	145	770	45.2
29	66	93	114	172	211	164	820	45.9
対前年度比 (%)	77.3	98.9	123.7	97.7	82.0	88.4	93.9	

(イ) 転 帰

区分 年度	継続	終 了										中断	計
		復職・ 復学・ 労務	作 業 所	自 助 グ ル ー プ	デ イ ・ ケ ア	家 庭 復 帰	施 設	ア 単 バ ー ト 身	転 院	生 活 グ ル ー プ ホ ー ム 訓 練 施 設	そ の 他		
30	169	10	4	25	26	340	43	75	46	14	13	5	770
29	220	13	9	45	40	352	25	25	47	14	23	7	820
対前年度比 (%)	76.8	76.9	44.4	55.5	65.0	96.6	172.0	300.0	97.9	100.0	56.5	71.4	93.9

(ウ) プログラムの内容および実施状況

プログラム名	参加延人員 (人)	内 容
フリースペースB	883	ネット手芸、刺繍、編み物、パソコン、認知機能トレーニングなど机上作業中心。
フリースペースA	562	種目はフリースペースBと同様であるが、より援助が必要な対象者が参加。
LiST	64	掃除、マナー、身だしなみ、コミュニケーションなどの生活技能の学習と実技。
スポーツ	204	体育館やグラウンドで軽スポーツを行うグループ活動。
園芸	245	花や野菜類の栽培を実施。屋外で行うグループ活動。
のんびりスペース	280	病棟から出て落ち着いた時間を他者と共有することを目的としたプログラム。
趣味空間ふらっと	62	病棟から出て他者と時間を共有し、楽しむことを目的としたプログラム。
レッツ トライ!	245	1ヶ月に1つのテーマ（ボードゲーム、リラクゼーション、陶芸、音楽療法など）を取り上げ、作業体験する。
2A 病棟OT	1,861	軽体操と認知トレーニング、レクリエーション、季節行事などを行う。週2回実施。
2B 病棟OT	1,294	『ボディメンテ』、『ワークタイム』、『ホビー』を各1回、週3回実施。
3A 病棟OT	1,671	軽体操と認知トレーニングを中心に、他レクリエーションなどを行う。週2回実施。
3B 病棟OT	1,030	『アート』（作品作り）、『さきトレ』（運動プログラム）、『リラクゼーション』を各1回、週3回実施。
4A 病棟OT	874	作品作りと認知トレーニング、音楽の集い、個別OTなどを行う。週1回実施。
4B 病棟OT	637	個人作品作りとグループ活動を各1回、週2回実施。
5A 病棟OT	384	『めざましプログラム』、『リラクゼーション』、『からだづくり』を各1回、週3回実施。
5B 病棟OT	525	『リラクゼーション』、『からだづくり』を各1回、週2回実施。
個別OT	57	対象者に合わせて体操や作品作り、認知機能トレーニングなどを実施。
ド・レ・ミ♪	110	外部講師として、音楽療法士を招き音楽プログラムを月1回実施。
特別プログラム	147	カラオケ、音楽の集い、お菓子作り、作品作りなどを実施。全病棟を参加対象としたプログラムで月1回実施。
パワーアップセミナー	25	疾患、服薬、感染、コミュニケーションなどのテーマを専門職種を講師として招き学習する。年に3回程度実施。
スキルアップセミナー	45	少人数で行う統合失調症に関する疾患教育。5A・5B病棟にて1クール3回を年3回実施。
面接	100	インタビューや情報収集、再評価等の面接を実施。
計	11,305	
医療観察法病棟	2,352	『ものづくり』『ガーデニング』『からだづくり』『音楽プログラム』を週1回、『シャッキリ!! 脳力トレーニング』を週2回実施。他にIADLや創作などの個別OTや多職種での目的別プログラムを実施。

(工) 教育 (実習・講師派遣)

a 実習生の受け入れ

内 容	対 象	実 施 日	人 数
作業療法 臨床実習Ⅲ	帝京平成大学 健康メディカル部 作業療法科4年	平成30年6月11日～8月3日	1
作業療法 総合臨床実習Ⅱ	湘南医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻4年	平成30年6月11日～8月3日	1

(3) デイ・ケア療法

外来の精神科患者を対象に社会生活機能の回復を図るため、昭和57年6月から試行し、昭和61年4月に精神科デイ・ケア療法大規模適合施設の承認を受け、本格実施した。実施にあつては、医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、公認心理士の多職種チームを構成し、対象者の社会生活支援を行ってきた。

開催日は月曜日から金曜日の週5日で、平日にいつでも利用できるようになっている。治療内容は、集団精神療法や日常生活訓練、SSTや就労関連プログラムなど心理教育的プログラムを中心に、茶道・華道など外部講師によるプログラムも取り入れ、利用者の要望に応えられるように多種に及んでいる。平成18年度から診療報酬の改正に伴い、3時間程度のショート・ケアが新設された。当院デイ・ケアでも同年8月10日よりショート・ケアを導入し、新規入所者で急性期離脱後の活動性の低い方や面接を中心とした支援で就労を継続したい方などに活用していただいている。また平成15年に医療観察法が制定され、平成17年より施行された。これを受け当院デイ・ケアでも医療観察法の対象者を積極的に受け入れている。

平成26年12月の新棟開棟に伴う外来リハビリテーションの再構築のため、プログラムを再編成し、平成26年1月から外来作業療法患者のデイ・ケア移行を進めてきた。

新棟開棟直後の12月より依存症デイ・ケア (SMARPP、SARPP) を開始し、平成27年10月からmini scopを各々週1日実施している。運営に当たっては、SMARPPをデイ・ケア科が、SARPPを福祉医療相談科が、mini scopを外来看護師と心理科が主体となって行っている。

また平成27年1月からリワークのデイ・ケアを週4日から開始し、翌年6月には週5日に増やした。平成30年秋よりアフターフォローを目的とした「アフターリワーク」、平成31年1月からリワークの準備性を高めることを目的とした「プレリワーク」を開催した。リワーク全般の運営に当たっては、心理科・福祉医療相談科の協力を得ながら実施している。必要に応じて、職場との面接や就労定着支援を行っている。

訪問支援の実施としては、地域活動支援センター・生活訓練施設・就労移行支援事業所などの福祉施設やハローワーク・就労相談センターなどの就労支援機関へも同行し、スムーズな地域生活への導入や移行に取り組んでいる。院内の他部門との連携としては、訪問看護部門との協力体制で主に単身者の生活を支援している。

また退院促進の一環として、退院間近の入院患者も受け入れ、スムーズな地域生活への移行を図っており、平成22年度からは、医療観察法の入院処遇 (社会復帰期) の対象者も受け入れている。

地域との連携では、地区の保健福祉センターや上記同様の福祉施設の他、他デイ・ケアとの交流 (作品展) や港南区ネットワーク祭りなどに参加し、交流を深めている。そして、神奈川デイ・ケア連絡会の事務局補佐として、県内デイ・ケア施設との連携にも積極的に取り組んでいる。

その他、退所後の支援として、退所者やその家族との面接も行なっている。

ア 精神科デイ・ケア

(ア) 月別参加者数

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (右：月平均)	
在 籍 者 数		216	230	227	221	223	226	232	230	225	221	228	223	2,702	225
(う ち 入 院)		19	17	15	12	12	15	17	16	10	12	9	7	161	13
(うち医療観察者法通院者)		7	7	7	7	8	8	6	6	6	4	4	4	74	6
延 数	参 加 者 延 数	689	751	777	688	713	555	732	699	600	602	632	711	8,149	679
	(う ち 入 院)	7	23	22	2	6	4	13	16	2	12	0	3	110	9
	(医療観察者法通院者)	41	47	42	52	58	37	38	20	23	18	20	23	419	35
シ ョ ー ト 延 数	シ ョ ー ト 延 数	442	479	516	460	451	347	442	423	367	374	390	442	5,133	428
	(う ち 入 院)	7	22	20	2	1	4	13	14	2	12	0	3	100	8
平 均	参加者一日平均	34	36	37	33	31	31	33	33	32	32	33	36	401	33
	(う ち ショ ー ト)	22	23	25	22	20	19	20	20	19	20	21	22	253	21
実 施 日 数		20	21	21	21	23	18	22	21	19	19	19	20	244	20

(イ) 地域別参加者数

地域別 年 度	横 浜 市															横 須 賀 市	鎌 倉 市	川 崎 市	相 模 原 市	藤 沢 市	そ の 他	合 計				
	鶴 見 区	西 区	中 区	南 区	港 南 区	保 土 ヶ 谷 区	旭 区	磯 子 区	港 北 区	戸 塚 区	栄 区	泉 区	神 奈 川 区	緑 区	金 沢 区								都 筑 区	瀬 谷 区	青 葉 区	小 計
平成30年度	4	2	8	29	65	15	5	10	2	30	12	10	5	3	10	0	1	0	211	2	6	3	2	5	5	234
平成29年度	5	5	8	37	67	16	7	22	4	37	7	7	5	4	8	0	1	1	241	2	4	2	1	3	6	259

(ウ) 年齢・病名別参加者数

病 名	19歳以下			20～29歳以下			30～39歳以下			40～49歳以下			50歳以上			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
中毒性精神障害 (F1)					1	1	2	2	4	2	3	5	3	1	4	7	7	14
統合失調症 (F2)	9	4	13	11	18	29	25	8	33	26	24	50	14	10	24	85	64	149
気分(感情)障害 (F3)		2	2	2	3	5	4	3	7	9	5	14	1	2	3	16	15	31
神経症性障害 (F4)	2	2	4	4	2	6	1	3	4		3	3				7	10	17
人格及び行動障害 (F6)				1	1	2		2	2		1	1				1	4	5
精神遅滞 (F7)	1	1	2	4	3	7		3	3	1		1	1	2	3	7	9	16
そ の 他											1	1		1	1		2	2
計	12	9	21	22	28	50	32	21	53	38	37	75	19	16	35	123	111	234

(エ) プログラム統計

プログラム		小計	内 容 ・ 目 的
療 集 団 精 神 法	全体ミーティング	12	DC運営に関わる議題についてメンバー・スタッフで話し合う。
	グループミーティング(忘年会委員会)	2	行事ごとに委員会を作り、企画・立案・運営をメンバー・スタッフで実施していく。
	小 計	14	
訓 職 練 業 前	作 業	106	外部からの請負作業(やまゆり発送など)を通して、就労・作業所への準備性を高めていく。
	係の仕事	12	分担された係を体験していく中で就労・作業所などへの心構えや責任感を養っていく。
	社会復帰プラン	35	就労もしくは作業所などを指すために準備性を高める。
	小 計	153	
創 作 活 動	創 作	41	創造性を養い、情緒の表出を図るため、絵画、手工芸、文芸、共同制作等を行う。
	ものづくりサークル	22	様々な手芸品に挑戦する中で創る楽しさを体験していく。達成感を得る。
	小 計	63	
指 日 導 常 生 活	料 理・料理の買い物	36	能力・目的別にグループ分けをし、調理に取り組む。
	生活クラブ	34	日常生活に必要な知識・技能の習得を図る。参加者の自立を促す。
	小 計	70	
活 ク ラ ブ 活 動	グループ活動	15	担当スタッフ別のグループとなり、それぞれグループ活動に取り組む。
	クラブ活動	133	同好のメンバーが集まり、自主的にグループ運営を行なう
	小 計	148	
運 動 療 法	スポーツ	57	チームプレーを通して協調性を養う、体力作り、身体を動かす心地よさを体験すること等を目的とする。
	スポーツ大会(含む、準備、交流試合)	2	プログラムで練習した競技の大会へ参加する。
	体力測定	1	現在の体力を把握し、自己の身体への意識を高める。
	小 計	60	
音 楽 療 法	コーラス	21	外部講師の指導により、合唱の練習をし年数回成果を発表。
	ドラム	3	外部講師の指導により、ドラムを中心とした打楽器を皆で演奏をする。
	小 計	24	
認 知 行 動 療 法 ・ 心 理 教 育 他	健康・栄養講座(健診含む)	31	身体的な自己管理に関心を持つことを目的とし健康に関する講義を受ける。
	SST	21	対人関係の改善を目的に、課題の場面を演じながら訓練を行う。
	気持ちのコントロール	0	怒りを中心とした自分の感情を認識しコントロールする方法を学ぶ
	統合失調療法	19	統合失調症の症状や対処法などの知識を身に付ける。
	認知行動療法	20	病気の症状についての対処法を身に付けるための心理教育。
	福祉講座	6	精神障害者の動向や福祉制度の状況などを知る機会とする。
	WRAP	20	自分が元気であるための計画を立て、それを実践していく。
	健康クラブ	21	健康上の身体的問題を認識し、自己管理をしていく。
	メタ認知	19	認知の偏りを学ぶ。
	小 計	157	
シ ョ ン 活 動	パーティー、打上げ(含む、準備)	13	忘年会、歓送迎会等の準備、実施。
	外出(含む、準備)	6	社会性を養い、視野を広げることを目的とする。
	バザー、DCコンサート・港南ネット祭り・デコア作品展(含む、準備)	25	入院患者・職員との交流、地域福祉施設との交流を図るために参加。
	かき氷大会・すいか割り(含む準備)	2	夏の風物詩としての行事を行い楽しむ。
	施設見学(含む準備)	4	地域の通所施設等を見学し、デイケア退所後の通所先のイメージをもつ。
	小 計	50	
そ の 他	パソコン	41	外部講師の指導により、パソコンの操作を学ぶ。
	書 道	11	外部講師の指導により、各自好きな言葉を書き、添削を受ける。年数回成果を発表。
	茶 道	10	外部講師の指導により、お茶のたて方、飲み方を学ぶ。
	華 道	9	外部講師の指導により、お花のいけ方を学ぶ。
	新人オリエンテーション	7	新入所者に対し、メンバーがデイケアの説明を行う。
	アロマセラピー	1	外部講師の指導により、いろんな香りを楽しみながら、リラックスする方法を学ぶ。
	植物を育てる	19	花や野菜などの植物を育てることで季節を得ながら、達成感を得る。
	メイクアップ講座	1	外部講師の指導により、メイクの方法を学び整容への関心を高める。
	頭のトレーニング	11	クイズ・パズル等を行うことで頭のリラックス、及び活性化を図る。
	英会話	10	外部講師の指導により、英会話について学ぶ。
	スモールグループ	144	大人数のプログラムが苦手な方が、小人数で落ち着いた環境で課題に取り組むことを目的とする。
	個別活動	0	自身の疾患について理解を深めるために個々で学習する。
	家族会	31	家族面接の実施、福祉講座への参加呼びかけなど行う。
	小 計	295	
	合 計	1,034	

(オ) 転 帰

(単位：人)

性別	転帰	就労	就労移行支援	就労継続支援	支援センター	就学	家庭内適応	転院等	入院	不適応	死亡	中断	その他	DC延長	6ヶ月未満	計
男		5	2	6	4	0	0	4	2	0	0	13	1	82	10	92
女		2	3	3	4	0	1	3	2	0	0	20	0	55	16	71
計		7	5	9	8	0	1	7	4	0	0	33	1	137	26	163

(キ) 家族会

開催月	テーマ	開催数	参加者数
5-6月	家族面談	2回	31名
6月(6/29)	働くってどういうこと	1回	2名
8月(8/14)	ハローワークってどういうところ	1回	1名
10月(10/29)	特例子会社について(当事者の働くを考える)	1回	40名
10-11月	家族面談	2回	23名
11月(11/29)	デイケアOBからの話	1回	1名
合 計		8回	98名

イ リワークデイ・ケア

(ア) 月別参加者数

(単位：人)

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
														(右：月平均)
在 籍 者 数	11	12	7	9	9	15	14	16	17	14	16	13	153	13
参加者延数(デイケア)	2	7	8	3	9	30	44	40	5	7	9	15	179	15
参加者延数(ショートケア)	73	59	72	88	165	135	157	109	64	64	71	88	1,145	95
参加者一日平均	4	3	4	4	8	9	9	7	4	4	4	5	65	5
実施回数	20	21	21	21	23	18	22	21	19	19	19	20	244	20

(イ) 疾患別参加者数

病 名	人数
うつ病	10
反復性うつ病性障害	4
双極性感情障害	5
持続性気分障害	1
適応障害	2
その他	5
計	27

(ウ) 利用者の転帰

転 帰	人 数
復職	11
転職	0
再就職	0
求職	2
中断	2
その他	3
計	18

ウ 依存症デイ・ケア

(ア) SMARPP

(単位：人)

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
														(右：月平均)	
在籍者数		13	13	12	12	12	13	13	13	15	9	9	11	145	12.1
(うち医療観察者法通院者)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
延数	参加者延数	36	35	23	30	23	16	20	15	15	12	15	16	256	21.3
	(うち医療観察者法通院者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均	参加者一日平均	9.0	7.0	5.8	6.0	5.8	4.0	4.0	3.8	3.8	3.0	3.8	4.0	60	5.0
実施日数		4	5	4	5	4	4	5	4	4	4	4	4	51	4.3

(イ) SARPP

(単位：人)

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
														(右：月平均)	
在籍者数		10	9	9	6	6	7	6	9	8	8	9	10	97	8.1
(うち医療観察者法通院者)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
延数	参加者延数	22	20	18	13	10	18	14	20	17	14	10	3	179	14.9
	(うち医療観察者法通院者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均	参加者一日平均	5.5	5.0	4.5	3.3	2.0	4.5	3.5	4.0	4.3	3.5	2.5	1.0	44	3.6
実施日数		4	4	4	4	5	4	4	5	4	4	4	3	49	4.1

(ウ) mini-scop

(単位：人)

月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
														(右：月平均)	
在籍者数		-	8	8	8	-	-	7	7	7	-	9	9	63	7.0
(うち医療観察者法通院者)		-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	0.0
延数	参加者延数	-	24	24	12	-	-	11	12	8	-	15	23	129	14.3
	(うち医療観察者法通院者)	-	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	0	0	0.0
平均	参加者一日平均	-	6.0	6.0	6.0	-	-	3.7	3.0	2.7	-	7.5	5.8	41	4.5
実施日数		-	4	4	2	-	-	3	4	3	-	2	4	26	2.9

エ 個別支援

a 相談件数

(単位：人)

手段	本人	家族	退所者	その他関係機関
電話	160	35	10	115
面接	891	61	25	105
見学	-	-	-	92

b 訪問件数

(単位：人)

職場、福祉施設など	12
-----------	----

c カンファレンス（医療観察法含む）

(単位：人)

科内	科外
2,368	112

オ 教育

(単位：人)

	医療関係者	福祉関係者	行政関係者	その他	合計
研修	154	21	4	3	182
見学	80	45	19	43	187

(4) 検査業務

ア 心理業務

コメディカル部心理科には常勤7名、非常勤1名、計8名の心理士が在籍しており、うち常勤2名は医療観察法病棟、常勤1名は思春期病棟に専従で配属、非常勤1名は物忘れ外来の検査を担当、常勤1名は依存症病棟に配属されている。外来及びその他の病棟には窓口として担当心理士がそれぞれ配属されている。

主な業務は心理検査、心理療法（集団精神療法、個別面接等）、医療観察法業務である。心理業務のうち心理検査は、精神医学的診断を補うこと、パーソナリティの理解を深めること等を目的とし、必要に応じて検査を組み合わせ実施した。心理療法は外来ならびに入院患者を対象とし、一对一の心理面接、集団療法などの形態で必要な心理的ケアを提供するものである。主治医から依頼のあった患者に対し、アセスメント（心理検査・アセスメント面接等）に基づいて契約を結び、必要に応じて主治医との連携をとりつつ継続的な関わりを持った。面接対象患者の診断は統合失調症、うつ状態、人格障害等であった。集団療法は、多職種と協力し、病棟にて疾病教育や座談会等を中心に実施した。中でも救急病棟においては作業療法科、薬剤科と協力し、全3回の疾病教育を年間3クール行った。

専門病棟については以下の通りである。

依存症病棟では、木曜会のプログラムを担当した。また必要時に主治医の判断によって心理検査を導入した。さらに依存症部門で実施しているプログラム等に関して、研修や研究を行った（下記平成30年度研究・研修実績参照）。

ストレスケア病棟では、心理検査ならびに心理面接、心理療法（看護スタッフが行うCBTプログラム、SSTプログラムの補助）を行った。また病棟におけるカンファレンスにも参加し、協働を図った。他に、臨床研究（rTMS、鍼灸）入院において、神経心理学的な心理検査を実施した。

思春期病棟では、他職種と協力しながら各種プログラムを企画運営し、必要時に心理検査等を実施した他、病棟カンファレンス等にも参加した。

医療観察法病棟においては、各種プログラムの企画運営、心理検査・心理面接の実施、対象者の外出・外泊への付き添い、MDT会議、CPA会議、治療評価会議等多職種チームの会議等に参加した。

外来においては、医師から依頼のあった心理検査及び心理面接を実施し、その結果を報告した。必要に応じてフィー

ドバックも行った。その他、依存症プログラムSCOP及びリワークプログラムを他職種とともに実施。SCOPでは導入前後の心理検査及びプログラムの運営を、リワークプログラムでは多職種で運営についての検討を重ね、協力してプログラム・各種面接を実施した。リワークプログラムにおいては認知行動療法（集団精神療法）、テーマトークを担当し、必要に応じて心理検査等を行った。医療観察法通院処遇対象者に対しては、治療評価会議、チーム会議、ケア会議に参加した他、必要に応じて個別面接を行った。平成29年度より開設されたものわすれ外来では、認知機能に関する認知機能検査を実施し、鑑別診断の一助として、現状の認知機能について所見を作成した。

また、臨床心理士受験資格に関する指定大学院より修士課程在学中の研修生1名を平成28年度から、週1日受け入れを行っている。

その他、院内外において以下のような研究・研修を担当した。

平成30年度研究・研修実績

- ・「依存症専門外来における感情焦点型プログラム（SCOP）」（第36回日本集団精神療法学会）
- ・「平成30年度医療観察法指定通院医療機関従事者研修会」
- ・神奈川県依存症拠点事業「依存症セミナー」「SCOPセミナー」
- ・第1回認知症シンポジウム
- ・第2回認知症シンポジウム

今後は心理職が公認心理師として国家資格化されたことに伴い、さらなる心理的援助の質の向上および拡充を図ると共に、養成にも寄与していく予定である。

(ア) 心理検査（平成30年度）

検査名		外来（リワーク含）	入院（医観法含）	臨床研究（rTMS・鍼灸）	計
知能検査	WAIS-III	75	142	1	218
	WISC-IV	16	16	0	32
	田中ビネー	1	1	0	2
	その他	0	0	0	0
人格検査	ロールシャッハ人格診断検査	52	93	0	145
	SCT文章完成法	65	109	0	174
	描画検査（バウムテスト等）	57	140	0	197
	P-Fスタディ	45	96	0	141
	Y-G	2	3	0	5
	TEG	2	2	0	4
	その他の人格検査	0	0	0	0
認知機能検査	HDS-R, MMSE	220	130	0	350
	ADAS	79	0	0	79
	リバーミード	79	0	0	79
	Clock Drawing	79	0	0	79
	COGNISTAT	8	36	67	111
	WMS-R	0	0	0	0
	Word Fluency	0	0	6	6
	WSCT	0	0	5	5
	TMT	0	0	5	5
	Color Strope	0	0	5	5
その他の心理検査	ベンダーゲシュタルトテスト	0	0	0	0
	内田クレベリン検査	0	0	0	0
	HAM-D	0	0	110	110
	BDI	0	0	116	116
	STAI	0	0	116	116
	STAXI	0	0	105	105
	GDS	82	0	0	82
	SCID	0	0	1	1
	AQ	0	0	1	1
	CES-D	0	215	0	215
	その他	29	36	0	65
計 （実人数）		891 (216)	1,019 (455)	538 (35)	2,448 (706)

(イ) 心理療法 (平成30年度)

	外来(リワーク・依存症除)	リワーク	入院	救急病棟	ストレスケア	依存症	思春期	医療観察法病棟
心理面接等	289 (36)	—	131 (8)					690(28)
集団プログラム等	—	50	24	9	105	80	91	141

※計欄 () は実人数を示す。
 ※外来移行後分含む。

(ウ) その他 (平成30年度)

リワーク・プログラム DCとの合同のプログラムの実施	50
リワーク・プログラム インテーク・復職準備評価面接の実施	17
医療観察法 (入院病棟) 多職種チーム会議への参加	312
医療観察法 (入院病棟) ケア会議への参加	99
医療観察法 (通院処遇) 多職種チーム会議への参加	36
医療観察法 (通院処遇) ケア会議への参加	49

イ 放射線業務

今年度のMRI導入に伴い、精神医療センター1名、こども医療センター派遣職員1名の2名体制となった。

一般撮影の延べ人数、延べ回数の対前年度比はそれぞれ、108.7%、95.2%と延べ人数はやや増えたが、延べ回数はやや減った。

CT撮影は、対前年度比98.5%で、ほぼ横這いだった。

MRI撮影は今年度より新規導入され、82件程となった。

PDI (Portable Data for Imaging、医用画像情報を含んだ可搬型媒体) は、Export業務はMRI読影提携先へ出力が増えたため、対前年度比244.3%と大幅に増えたが、今後遠隔読影になるため、来年度以降は100件弱と思われる。Inport業務の認知度が低いのが現状である。

(ア) 一般撮影業務件数 (人数及び撮影回数)

部位 月	頭 部		胸 部				腹 部				椎 骨				四 肢 骨				そ の 他				合 計					
	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数	人 数	回 数				
	ポータブル 撮影室																											
H30.4		1		1	7	94	7	98	1	104	1	104					5		14		2		6	8	206	8	223	
5		1		1	14	126	14	134	3	130	3	130	1		2		3		6	1		2		18	261	19	273	
6		2		3	8	97	9	103	1	105	1	105					1		2		1		3	9	206	10	216	
7		1		1	3	86	3	90	2	110	3	110					1		2					5	198	6	203	
8		2		2	4	102	4	111	1	130	1	130					2		4		1		2	5	237	5	249	
9		1		1	3	91	3	105	2	112	2	112	1		2		1		4		1		2	5	207	5	226	
10		3		3	6	101	6	110	3	120	3	120					5		14		2		3	9	231	9	250	
11		2		3	4	107	4	115		131		131	1		2		2		4					4	243	4	255	
12		4		4	2	93	2	96	1	118	1	118	1		2		2		8		1		2	3	219	3	230	
H31.1		3		3	8	93	8	96	3	112	3	112	1	1	2	4	1	4	2	8		6		16	13	219	15	239
2		2		2	12	94	12	100	2	122	2	122	2		4		2		6		2		3	14	224	14	237	
3		3		3	12	93	13	101	2	107	3	107		5		9	1	4	4	14					15	212	20	234
合計	0	25	0	27	83	1,177	85	1,259	21	1,401	23	1,401	1	12	2	25	2	32	6	86	1	16	2	37	108	2,663	118	2,835
構成比(%)	0.0	0.9	0.0	0.9	3.0	42.5	2.9	42.6	0.8	50.6	0.8	47.4	0.0	0.4	0.1	0.8	0.1	1.2	0.2	2.9	0.0	0.6	0.1	1.3	3.9	96.1	4.0	96.0

(イ) CT検査業務件数

月	部位	頭 部	胸 部	腹 部	椎 骨	四肢骨	その他	合 計
H30.4		91	6	11				108
5		107	9	15		1		132
6		88	6	12		1		107
7		105	4	7				116
8		96	4	6				106
9		98	7	6				111
10		98	7	13	1			119
11		97	5	14		2	1	119
12		94	6	16	1	1		118
H31.1		91	4	10				105
2		96	8	12				116
3		90	6	17		1		114
合 計		1,151	72	139	2	6	1	1,371
構成比(%)		84.0	5.3	10.1	0.1	0.4	0.1	100.0

(ウ) MRI検査業務件数

月	部位	頭 部	胸 部	腹 部	椎 骨	四肢骨	その他	合 計
H30.4		10						10
5		3						3
6		5						5
7		1						1
8		5						5
9		4						4
10		9						9
11		13						13
12		9						9
H31.1		10						10
2		8						8
3		5						5
合 計		82	0	0	0	0	0	82
構成比		6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

(エ) PDI依頼件数

月	種別	Export	Inport	合 計
H30.4		16	1	17
5		12	1	13
6		12	1	13
7		4		4
8		14		14
9		12	3	15
10		14		14
11		14		14
12		19		19
H31.1		24	3	27
2		16	1	17
3		14	1	15
合 計		171	11	182

(オ) 一般撮影業務件数推移

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度比(%)
延べ人数	1,972	1,936	1,796	1,725	1,732	1,806	1,834	2,373	2,556	2,549	2,771	108.7
延べ回数	2,455	2,542	2,232	2,070	2,081	2,204	2,251	2,989	3,225	3,101	2,953	95.2

(カ) CT検査業務件数推移

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度比(%)
延べ人数	937	968	886	942	975	964	958	1,131	1,285	1,389	1,368	98.5

(キ) MRI検査業務件数推移

	30年度	前年度比(%)
延べ人数	82	-

(ク) PDI依頼件数推移

	27年度	28年度	29年度	30年度	前年度比(%)
Export	77	82	70	171	244.3
Inport	6	19	13	11	84.6

ウ 臨床検査業務

	院内処理件数		委託処理件数		合計	
	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度
一般検査	20,263	19,485	49	69	20,312	19,554
血液検査	21,176	17,450	24,578	23,234	45,754	40,684
生化学的検査	31,172	36,423	84,157	80,543	115,329	116,966
内分泌学的検査	0	0	4,098	2,326	4,098	2,326
免疫学的検査	566	567	5,932	5,567	6,498	6,134
病理学的検査	0	0	2	1	2	1
微生物学的検査	0	0	183	217	183	217
生理機能検査	1,624	1,678	0	0	1,624	1,678
計	74,801	75,603	118,999	111,957	193,800	187,560

(5) 福祉医療相談科業務

福祉医療相談科は、平成30年度の依存症対策強化と外来患者への対応のため2名の増員があり、ソーシャルワーカー17名（常勤14、契約職員1、非常勤2）事務担当1名の計18名の体制となった。主にご本人・ご家族や地域関係機関等からの受診・入院相談窓口としての機能と退院支援やケースワーク、退院後の治療継続や地域生活に関わる各種相談、経済的問題、福祉制度・サービスの案内等々に対応し、ご本人ご家族との信頼関係の継続や地域連携を重視して相談業務に取り組んでいる。

平成26年4月の精神保健福祉法の一部改正により、医療保護入院者の退院支援の役割を果たすために、退院後生活環境相談員として入院の時点からご本人及びご家族に対し、相談支援を行い、医療保護入院継続の妥当性を図るための「医療保護入院者退院支援委員会」を平成30年度は155件開催した。

救急医療については平成15年度に26床の救急病棟として整備され、現在は70床のうち16床が神奈川県基幹病院としてシステム救急用のベッドとなっている。救急については、本人・家族との面接や生活問題に関する調整をはじめ、県・横浜市・川崎市・相模原市担当課や後方病院との連絡調整などに関わっている。

地域移行（退院支援）については、平成15年度から長期在院者の退院促進に対する取り組みを進めてきたが、新病院となり地域連携室をはじめ多職種連携で更なる取組みを行っている。

平成17年度から施行された医療観察法の指定医療機関として、鑑定入院および、通院医療を開始して平成21年度に小規模病棟から開始して平成24年度からフル規格病棟での入院医療を受け入れている。医療観察法病棟には3名のソーシャルワーカーを配置して対応している。（エで再掲）。

平成20年4月からは自殺予防対策の一環としてうつ病を対象としたストレスケア病棟を開棟した。病棟担当者はリワークプログラムにも多職種チームのスタッフとして参加している。

依存症担当者は入院、外来患者への対応と共に、依存症ショートケアで行っているSARPPプログラムや感情を扱うSCOP、薬物、アルコール家族会のファシリテーターを担当している。

思春期病棟の担当者は、受診・入院相談、家族相談への対応や児童相談所や教育機関など地域関係機関等との連携構築を行っている。平成29年度より、県立こども医療センターと医師を交えた多職種での連絡会を定期開催し、過齢児への通院先移行や入院の受け入れ等、連携を強化した。

もの忘れ外来担当は、受診相談の他に、認知症シンポジウムで当日の相談も担当した。

地域支援としては、地域移行定着事業への協力、区の各種ネットワーク会議等への参加、依存症の回復施設の運営協議会に参加している。

平成30年度は依存症治療拠点機関として、「依存症ポータルサイト」を開設した。また、依存症セミナー開催や普及啓発等を多職種協働で実施した。

医療観察法指定医療機関のワーカーを中心とした、かながわ司法精神医療福祉ネットワークを主催、および全国医療観察法指定入院医療機関PSW連絡協議会に参加して連携の強化を図っている。

今年度は、全国自治体病院協議会精神科特別部会のコメディカル部会の関東ブロック会議の主催県として会議の企画調整を行い、会員との有益な意見交換や連携を実現した。

研究等実績としては第52回アルコール・アディクション医学会で2件、第57回全国自治体病院学会で1件、発表を行った。

その他、メディエーター活動や、かながわDPATチームに参加するなどソーシャルワーカーの担う役割は更に広がってきている。

ア ソーシャルワーク業務

(ア) 内容別相談件数

内 容	平成30年度				平成29年度計
	外 来	入 院	受診相談	計	
受診援助	1,176	178	4,029	5,383	4,420
入院援助	832	1,605	1,608	4,045	4,280
退院援助	108	5,988	3	6,099	5,977
心理的情緒的援助	1,149	1,818	64	3,031	2,193
経済問題援助	348	1,589	8	1,945	2,020
福祉制度利用援助	1,500	4,280	50	5,830	6,300
家族問題援助	347	806	94	1,247	1,439
住宅問題援助	110	451	0	561	677
就労問題援助	77	86	4	167	278
教育問題援助	48	162	7	217	472
権利擁護	17	421	1	439	415
退院請求処・遇改善請求	12	264	0	276	278
他医療機関との連携	1,156	2,370	365	3,891	3,119
依存症	2,297	2,557	1,346	6,200	5,495
医療観察	579	2,263	6	2,848	3,682
ストレス	382	327	506	1,215	1,043
思春期	351	1,031	879	2,261	1,851
その他	1,617	2,846	205	4,668	3,797
計	12,106	29,042	9,175	50,323	47,736

(イ) 実施方法別相談件数

内 容	平成30年度				平成29年度計
	外 来	入 院	受診相談	計	
面接	2,295	11,360	329	13,984	12,680
電話	8,424	14,506	8,715	31,645	30,233
外出	23	455	0	478	344
訪問	37	101	0	138	162
ケア会議	338	1,217	12	1,567	1,551
グループワーク	616	117	0	733	1,019
書類	172	511	15	698	716
その他	201	775	104	1,080	1,029
計	12,106	29,042	9,175	50,323	47,734

イ 地域連絡会議

県立病院機構メディエーター連絡協議会

会 議 名	場 所	実 施 日
県立病院機構メディエーター連絡協議会	機構本部等	1回/月

精神保健福祉担当者会議

会 議 名	場 所	実 施 日
精神保健福祉業務連絡会	港南区役所	平成30年11月20日

港南区地域生活支援会議

会 議 名	場 所	実 施 日
平成30年度 港南区自立支援協議会 代表者会議	港南区福祉保健センター	平成30年 5月16日
第1回港南区自立支援協議会	港南区役所	平成30年 6月12日
第2回港南区自立支援協議会	港南区役所	平成30年 9月19日
第3回港南区自立支援協議会	港南区役所	平成31年 1月31日
第4回港南区自立支援協議会	港南区役所	平成31年 3月 5日

港南ネット会議

会 議 名	場 所	実 施 日
平成30年度 第1回港南ネット会議	港南中央地域ケアプラザ	平成30年 5月11日
第2回港南ネット会議	港南中央地域ケアプラザ	平成30年 7月13日
第5回港南ネット会議	港南中央地域ケアプラザ	平成31年 3月 8日

子どものこころの診察ネットワーク事業

会 議 名	場 所	実 施 日
第7回神奈川県地域児童青年期精神科入院医療の連携を考える会	かながわ県民センター	平成31年 2月 2日

ウ 協議会、見学会、研修受け入れ、講師派遣等

協議会等

内 容	場 所	参 加 日
自治体病院協議会精神科特別部会研修会	鹿児島県	平成30年 8月29日～31日
精神科特別部会コメディカル部 第15回関東ブロックコメディカル会議	松沢病院	平成30年10月 5日
精神科特別部会コメディカル部 第16回関東ブロックコメディカル会議	当センター	平成31年 3月31日
第1回依存症対策推進協議会	当センター	平成30年10月17日
第2回依存症対策推進協議会	当センター	平成31年 2月13日
薬物依存のある保護観察対象者等に対する地域支援連絡協議会	万国橋センター	平成31年 1月24日
医療観察法地域連携協議会	横浜保護観察所	平成30年12月12日

見学会・意見交換会

内 容	場 所	参 加 日
横浜地方裁判所裁判官医療観察法病棟見学会及び意見交換会	当センター	平成30年11月21日

実習受入れ

依 頼 校	人 数	実 施 日
日本福祉大学	1名	平成30年6月4日～6月20日
県立保健福祉大学	1名	平成30年7月2日～7月24日
上智社会福祉専門学校	1名	平成30年10月11日～10月29日
桜美林大学	1名	平成31年1月30日～2月21日

現任者の視察・研修受入れ

内 容	人 数	実 施 日
神奈川県精神保健福祉新任研修	6名	平成30年7月26日
平成30年度薬物依存症対応力向上研修	6名	平成30年11月7日 同 11月14日 11月21日 11月28日
社会復帰調整官実務実習	1名	平成31年2月26日～3月1日

講師派遣

内 容	場 所	実 施 日
薬物依存対象者の引受人等会	横浜保護観察所	平成30年7月27日 同 12月5日
医療観察法指定通院医療機関従事者研修	国立病院機構本部	平成30年8月9日 同 8月10日
横浜ひまわり会家族フォーラム	南公会堂	平成30年8月26日
神奈川県内指定通院医療機関実務担当者研修会	当センター	平成30年10月12日

薬物乱用防止教室講師派遣

学 校・団 体	実 施 日
海老名市海西中学校	平成30年7月18日
神奈川県立生田高等学校	平成30年7月25日
横浜市立釜利谷中学校	平成30年12月3日
桜陽高等学校	平成31年1月28日
城郷高等学校	平成31年3月20日

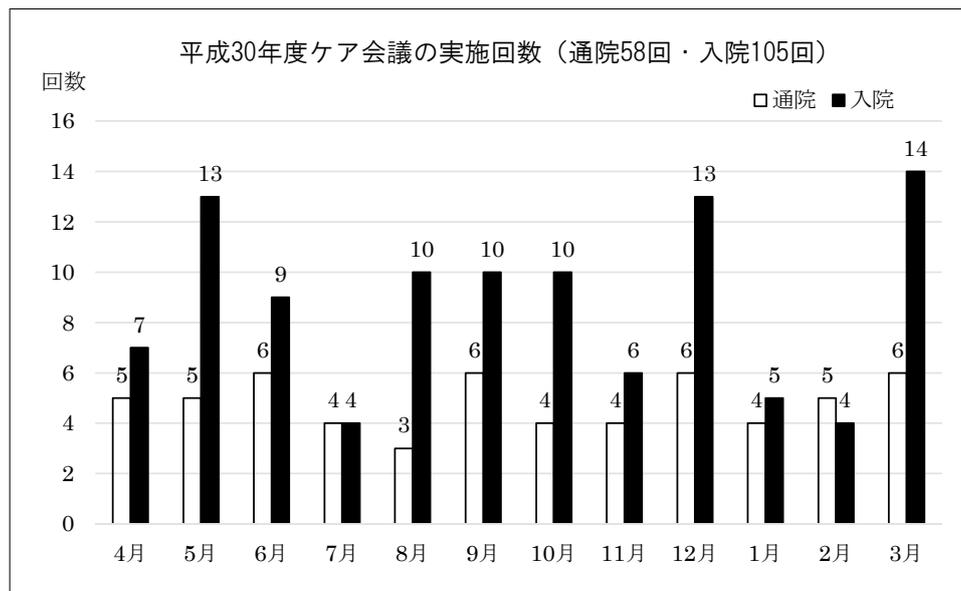
エ 医療観察制度の取組み

H17年7月15日より施行された「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（医療観察制度）」では、医療と司法が連携の上で対象者の社会復帰に必要な処遇（それに伴う入院及び通院医療）を行なうとされている。当院では鑑定入院ならびに医療観察法病棟における入院医療、外来・訪問看護・デイケアなどを基本とした通院医療を、それぞれ多職種チーム（MDT）を編成して提供している。入院医療では週に1回の治療評価会議と通院医療のMDT会議をベースに、通院医療では月に1回のMDT会議をベースにして、3ヶ月に1回程度のケア会議の中で処遇方針を協議して実施している。また、医療観察法運営会議を入院・通院ともそれぞれ月に1回開催している。通院処遇については、福祉医療相談科に統括の医療観察担当者（兼任）が配置され、訪問看護調整者と連携の上で全体調整及び直接処遇を行なっている。通院処遇対象者は、15名を上限として受け入れ可能であるが、これは全国的にみてもかなり多い受け入れ人数である。入院病棟においては3名の担当者を配置しMDTメンバーとして関わっている。H22年度からは事務担当が1名配置され、各種手続き書類や評価シートなどの文書整理やケア会議等のスケジュール管理など、マネジメント機能が飛躍的に充実強化されている。また、院内研修の実施および他県の医療機関等の視察研修や新任社会復帰調整官の研修も受け入れている。なお引き続き、円滑な制度運営に向けて、県内の指定医療機関のソーシャルワーカーおよび社会復帰調整官のネットワーク（かながわ司法精神医療福祉ネットワーク）、横浜地方裁判所裁判官の医療観察病棟の見学及び意見交換会を実施している。国立病院機構主催の指定医療機関従事者研修の講師も継続して担当している。

対象者数

	H30年度新規対象者数	累計（H17年度より）
鑑定入院	1	43
入院医療	5	87
通院医療	1	59

ケア会議の実施回数



連絡会

内 容	開催場所	実 施 日
かながわ司法精神医療福祉ネットワーク会議	久里浜医療センター 藤沢病院 横浜保護観察所 紫雲会横浜病院	平成30年4月19日 平成30年7月20日 平成30年10月19日 平成31年1月18日

講師派遣（再掲）

内 容	開催場所	実 施 日
医療観察法指定通院医療機関従事者研修	国立病院機構本部	平成30年8月9日・10日

オ 神奈川弁護士会による法律相談会

精神科医療を受ける上で生じる権利擁護やさまざまな法律に関わる問題（借金、家族関係など）について、精神保健福祉士として迅速かつ適切な相談および対応方法の提供を行ってきた。さらにH24年度に開棟した33床からなる医療観察法入院病棟における権利擁護支援の一環として位置づけるために、法律の専門家である弁護士の相談を定期的に開催し密な連携を図っていくことを目的として、H23年度のモデル期間を経て、月に1回（第3木曜日）の横浜弁護士会による法律相談会を継続開催している。その後対象者は救急、ストレス、一般病棟の入院患者にも広げ、PSWが申込み時の面接を行ない窓口弁護士との調整をはかった上で、希望者の人数により2人の弁護士に対応してもらった。個別相談の他に弁護士の先生による病棟説明会も開始している。

実績

回 数	月 日	利用者数	キャンセル
第1回	4/19	0名	0名
第2回	5/17	0名	0名
第3回	6/21	1名	0名
第4回	7/19	1名	0名
第5回	8/16	1名	0名
第6回	9/20	4名	0名
第7回	10/18	3名	1名
第8回	11/15	1名	0名
第9回	12/20	2名	1名
第10回	1/17	2名	2名
第11回	2/21	4名	0名
第12回	3/14	4名	0名

(6) 訪問看護業務

訪問看護科は、地域連携部に所属し、外来兼務の看護科長の他看護師4名が専任で訪問看護に従事している。対象者の思いや意思決定を尊重しながら、病状の見守りや生活支援を行っている。

院内多職種チームおよび地域の支援者の一員として、カンファレンス等で情報共有し、支援の方向性を確認している。

訪問看護件数は年間延べ2,440件、平均月間利用者数は150人。新規の申込みは3A病棟からの割合が高い。

訪問看護は入院中から対象者と密に関わり、多職種・多機関と連携し地域移行支援を進めている。長期入院患者が退院するケースも増えており、生活の再構築を必要とするため頻回に複数で訪問できる体制を整えている。病状が安定している対象者には、安心して当院の訪問看護終了または地域移行ができるようにケースごとに関わっている。訪問看護の利用が長期に及ぶと担当者が変わることによる難色を示される場合もあるため、今後は多職種での訪問やカンファレンスの機会を持ち、対象者の目標に合わせて訪問看護を定期的に評価できるよう心がけている。

1) 平成19年度から平成30年度までの年間訪問看護件数

年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
件数	3,118	2,888	2,903	2,966	3,004	2,969	2,592	2,235	2,237	2,352	2,473	2,440

2) 平成30年度 月別訪問看護件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問件数	204	213	216	209	199	187	214	210	195	196	199	198	2,440
対象者	142	142	142	142	146	151	152	154	159	162	159	156	150(月平均)
C F件数	9	8	9	14	8	11	14	9	12	14	6	14	128

3) 平成30年度 診療報酬別訪問件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間件数
訪問Ⅰ	200	209	214	205	199	181	208	206	189	190	193	194	2,388
訪問Ⅲ	4	4	2	4	0	6	6	4	6	6	6	4	52
退院前訪問	3	5	5	2	1	3	5	3	5	5	7	7	51
合計	207	218	221	211	200	190	219	213	200	201	206	205	2,491

4) 平成30年度 月別新規申し込み件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	4	1	1	2	4	5	2	2	5	3	2	2	33
外来評価訪問	1	1	2	2	1	0	0	1	0	1	0	0	9

5) 平成30年度 病棟別新規申し込み件数

外来		2A	2B	3A	3B	4A	4B	5A	5B	F	合計	
13	一般										医観	
13	0	0	0	9	0	2	4	1	2	2	31	2

6) 平成30年度 終了ケース

目標達成	施設利用	転院	長期入院	中断・拒絶	死亡	地域移行	合計
4	1	3	0	4	0	9	21

7) 平成30年度 疾患別分類

病類	F0 脳器質性 精神障害	F1 中毒性精 神障害	F2 統合失調 症	F3 気分障害	F4 神経症性 障害等	F5 生理的障 害等	F6 人格障害	F7 精神遅滞	F8 心理的発 達の障害	F9 特定不能の 精神障害	G4 てんかん	合計
件数	0	3	90	9	7	0	8	4	1	1	0	123

8) 平成30年度 地域別分類 (H31. 3月現在)

横浜市

地域	港南区	南区	戸塚区	保土ヶ谷区	金沢区	磯子区	栄区	泉区	緑区
件数	37	24	20	10	7	5	4	2	1
地域	神奈川区	旭区	中区	港北区	瀬谷区	鶴見区	西区	合計	
件数	2	3	1	0	1	1	1	119	

県域

地域	横須賀市	藤沢市	鎌倉市	合計
件数	1	1	2	4

9) 年齢別区分 (H31. 3月現在)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
3	9	16	35	33	21	6	0	123

10) 平成30年度 男女・住居別区分

	男性	女性
単身生活	31	26
家族同居	28	26
施設入所 (GH含)	7	5
合計	66	57

(7) 地域医療連携業務

患者・家族が安心して精神科医療を受けられ、また、安心して生活が送れるために地域医療・行政・福祉・病院の連携が重要である。当センターと地域をつなぐ“架け橋”の役割を担うため、2016年4月地域医療連携室として開室。準備期間を経て同年9月業務を開始した。スタッフ構成は医師、看護師、精神保健福祉士、事務担当の多職種である。

ア 地域医療連携室業務内容

(ア) 他の医療機関からの転院依頼の調整

- ・診療科を問わず他の医療機関からのm-ECT（修正型電気けいれん療法）、クロザピン治療、急を要さない受診や転院依頼を調整。

(イ) 長期在院患者の社会復帰支援

- ・地域生活を支援するための制度や利用できる社会資源を知り、退院促進へとつなげられることを目的に、横浜市地域移行・地域定着支援事業と協働し勉強会を開催。

(ウ) 見学・研修の受入調整

- ・当センター主催の「専門病棟見学会」の広報、申込み窓口。
- ・見学・研修を希望する関係機関の受入調整及びプログラム構成等。

(エ) 身体合併症発生時の対応

- ・当院では対応困難な事例発生時に病棟と連携し、総合病院や専門病院への受診や転院調整。

(オ) 普及啓発

- ・地域・関係機関と共催し、地域の住民向けに精神疾患の理解に繋がるような講座を開催。普及啓発活動を行う。

(カ) 地域連携

- ・紹介状返書状況を数値化。未返書については担当医師へ発信し、返書が100%維持できるように協力を求めた。
- ・施設見学の企画・実施（更生施設等）。

(キ) 認知症

- ・関係機関と連携を図るため、ワーキンググループと協働し広報活動。
- ・認知症シンポジウム開催の協力。

A 他の医療機関からの転院調整

	m-ECT	クロザピン	一般	全体
依頼件数	9	10	50	69
受入件数	2	2	12	16

B 見学調整

件数	機 関 名	参加者数
1	けあぶる訪問看護リハビリステーション	2
2	下永谷地域ケアプラザ	10
3	タカノ薬局	2
4	グループホーム	2
5	訪問看護リハビリステーションなかた	3
6	グループホーム	2
7	港南区福祉保健センター	10
8	かわさき記念病院	3
9	港南区役所	6
10	県立障害施設診療所	10
11	港南区役所	8
12	港南区周辺中学校	13
13	泉区役所	15
14	泉区役所	16
15	創英大学	6
16	埼玉森林病院	5
17	山手少年補導員会	10
18	神奈川県医療ソーシャルワーカー協会	7
19	沖縄県立盲学校	1
20	沖縄県立盲学校	2
21	三重県立こころの医療センター	10
		合計 143名

C 勉強会開催

テーマ	開催日	場所	参加者数
安心した地域生活のための 制度や社会資源	9月25日	4A	9名
	10月9日	5A	14名
	12月11日	2A	10名
	1月21日	5B	6名
	3月14日	3A	8名

D 病院見学会

	実 施 日	テ ー マ	参加実数
第1回	平成30年9月20日	・依存症について	79
第2回	平成30年10月11日	・気分障害とストレスケア	84
第3回	平成30年11月15日	・精神科救急について	106
第4回	平成30年12月6日	・思春期の精神疾患について	110
第5回	平成31年1月31日	・治療抵抗性統合失調症の治療	67
第6回	平成31年2月21日	・精神障害回復への援助	93
合計			539名

E 身体合併時対応

身体合併発生時の受診・転院調整・同行 … 6件

F 地域連絡会議

会 議 名	実 施 日	場 所
第1回県立病院地域医療連携担当者会議	平成30年5月25日	病院機構本部
第2回県立病院地域医療連携担当者会議	平成30年9月28日	病院機構本部
第3回県立病院地域医療連携担当者会議	平成30年11月30日	病院機構本部
第4回県立病院地域医療連携担当者会議	平成31年2月8日	病院機構本部
精神保健福祉業務連絡会	平成30年11月9日	栄区役所
精神保健福祉業務連絡会	平成30年11月20日	港南区役所
精神保健福祉業務連絡会	平成31年1月23日	戸塚区役所

G 講演依頼・講師派遣調整

日 程	依 頼 元	テ ー マ
平成30年6月1日	地域活動支援センター	精神科ってどのようなところ
平成30年6月28日	港南区包括看護協会	自閉症スペクトラムの概念と対応
平成30年7月18日	日限山地域ケアプラザ	精神障害の正しい理解からはじまる心のバリアフリー
平成30年8月6日	新潟県精神保健福祉協会	児童から思春期におけるひきこもりの理解と支援
平成30年9月8日	港南区役所	睡眠のメカニズム
平成30年9月27日	芹が谷地域ケアプラザ	うつ病の理解
平成30年10月10日	日限山地域ケアプラザ	認知症についての理解
平成30年11月8日	西湘高校	精神科医療のできること・教育現場のできること
平成30年11月12日	港南区中学校	思春期外来について
平成30年12月3日	東永谷地域ケアプラザ	認知症への知識と理解
平成30年12月7日	港南区役所	地域での共生
平成31年2月7日	ウイリング横浜	専門家に学ぶもの忘れ予防と対策
平成31年2月12日	ウイリング横浜	専門家に学ぶもの忘れ予防と対策
平成31年2月20日	南区役所高齢障害支援課	精神疾患のある方への支援
平成31年2月26日	港南台地域ケアプラザ	精神科救急
平成31年2月27日	下永谷地域ケアプラザ	精神疾患について
平成31年3月2日	栄区役所	睡眠のメカニズム
平成31年3月15日	桂谷地域ケアプラザ	認知症の進行を予防するには

(8) 薬剤業務

調剤業務は、年間処方せん枚数は入院60,504枚で1日平均248.0枚、外来44,038枚（うち院外処方せん41,940枚、院内処方せん2,098枚、院外処方せん発行率95.2%）で院内処方せんは1日平均8.6枚であった。年間調剤数は入院180,778件、外来14,251件、合計195,029件、1日平均799.3件であった。

薬剤情報提供業務（外来・院内処方）は、服薬アドヒアランス向上等を目的として対象患者さん全員に行っている。薬剤情報提供料の算定は1,072件であった。

薬剤管理指導業務（入院）は、指導実患者数418人（前年度325人）、指導回数1,886回（前年度1,672回）で、それぞれ対前年度比128.6%、112.8%と増加した。また、クロザピンを服用している患者さんについては原則全員行っている。

製剤業務は、製剤品目は7品目で、そのうち錠剤の散剤化製剤を3品目（800錠）行い調剤業務の効率化を図っている。「医療安全報告書」は電子カルテ上のソフト「ファントルくん」に入力しており、薬剤科の報告件数はレベル0が25件、レベル1が4件、その他0件で合計29件であった。

薬品管理業務は、購入薬品数は773品目であった。薬効別薬品購入額は、中枢神経系用薬が86.3%、循環器官用薬と消化器官用薬及びその他の薬剤が13.7%であった。

調剤室の全薬品の在庫量の確認を半期毎に実施した。病棟・外来の常備・救急薬品の管理については、薬剤師による点検を毎月実施した。

薬事会議は4回開催した。新規採用医薬品26品目、緊急購入医薬品106品目、削除医薬品27品目、後発品への切り替えは10品目であった。後発医薬品の使用割合（数量ベース）は年度末に70%を超えた。

医薬品情報管理業務は、「医薬品情報」（DIニュース）を11回発行した。

各種入院教育プログラムにおいては、19回集団指導を行った。

A 平成30年度調剤数

※）平成29年度稼働日数：244日

区 分	処方せん枚数 (枚)	剤 数 (件)	延べ剤数 (剤)	1 日 平 均	
				剤 数 (件)	延べ剤数 (剤)
入 院	60,504	180,778	994,347	740.9	4,075.2
外 来	2,098	14,251	210,730	58.4	863.6
計	62,602	195,029	1,205,077	799.3	4,938.8

B 平成30年度注射剤払い出し本数

注射せん枚数 (枚)	500mL未満 (本)	500mL以上 (本)	計 (本)
6,902	8,676	3,074	11,750

C 平成30年度製剤数

内服散剤 (g)	外 用 液 剤 (mL)		軟 膏 剤 (g)	錠剤の粉碎 (錠)
	非 滅 菌 製 剤	滅 菌 製 剤		
3,693	0	0	0	800

D 平成30年度剤型別薬品購入

剤 型	品 目		購 入 額	
	数	割合 (%)	金額 (円)	割合 (%)
内 用	607	78.5	90,327,717	55.7
注 射	96	12.4	70,426,259	43.4
外 用	66	8.5	1,495,598	0.9
消 毒 液	4	0.5	47,480	0.0
計	773	100.0	162,297,054	100.0

E 平成30年度薬効別薬品購入額

薬効	品目		購入額		
	数	割合 (%)	金額 (円)	割合 (%)	
中枢神経系用薬	精神神経用剤	204	26.4	122,154,137	75.3
	抗てんかん剤	37	4.8	4,271,340	2.6
	抗パーキンソン剤	12	1.6	542,184	0.3
	催眠鎮静剤・抗不安剤	68	8.8	4,374,813	2.7
	中枢神経系用薬(その他)	36	4.7	8,768,956	5.4
	循環器官用薬	54	7.0	1,274,832	0.8
	消化器官用薬	64	8.3	7,408,702	4.6
	その他の薬剤	298	38.6	13,502,090	8.3
	計	773	100.0	162,297,054	100.0

(9) 医療教育

ア 臨床研修医受入状況

管理型病院名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
足柄上病院									1	1		
厚木市立病院												
国際親善総合病院			1		1			1				
横浜労災病院			1		1	1	1	1	1	1		
汐見台病院												

平成30年度は臨床研修協力型病院として次のとおりに臨床研修医を受け入れた。(単位：人)

イ 研修受け入れ

対象	人数	実施日
横浜市立大学医学部学生	96人	火曜日(見学実習) 概ね3週に一回

(10) 栄養管理業務

栄養管理科では、安全、安心な食事提供を日常の業務目標としている。

入院治療の療養環境の一つとして美味しく、癒やしとなる食事作りを目指している。また、身体合併症の予防のために患者様の個性を踏まえた栄養管理計画を行っている。患者様の地域移行、退院促進に向けて健康管理や食生活の自立に結びつく患者教育・支援を実施している。

NST・栄養管理検討部会においては、定例の会議に加えて、病棟訪問、嚥下ラウンドを実施した。実施項目として低栄養改善、生活習慣病予防のほか誤嚥・窒息予防などを中心に取り組んだ。また、病棟カンファレンスにおいては栄養管理上の問題点、課題などの解決に向けた提案をしてきた。実施件数は項目イに表記した。

給食管理における異物混入、誤配膳などのリスクマネジメントは、平成30年度は、栄養管理科の科員の連携、協力を強化するために定例の科内会議のほか、科内ミーティングの充実を図った。

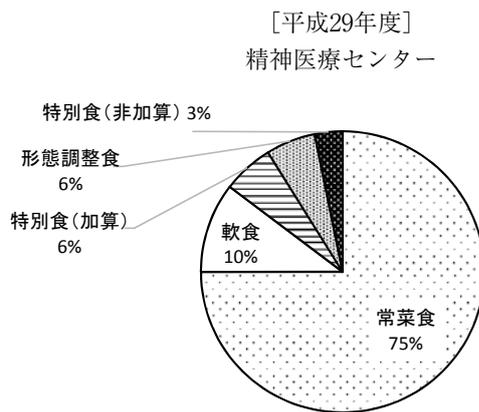
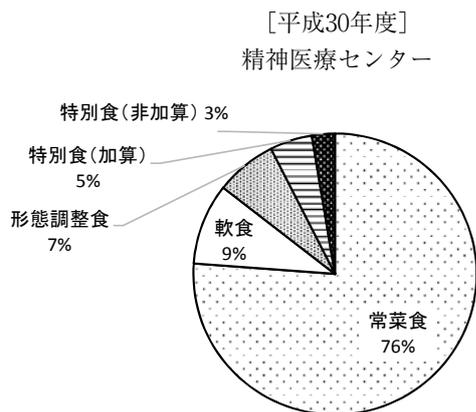
患者食糧費の適正活用のための業務改善は、前年度に継続して取り組みを実施した。入退院の患者数の変動に合わせて発注変更や在庫管理など無駄のない食材管理を実施することができている。

このような食材管理への取り組みにより食事の質を落とさずに経営改善に努めることができた。

ア 給食実施状況

窒息および誤嚥性肺炎対策として新設したソフト食が定着してきた。その結果、ソフト食は前年度対比441.8%であった。ソフト食以外では、分がゆ食が前年度対比210.6%、キザミとろみ食が前年度対比138.4%と軟らかい食事が昨年に引き続き増加している。咀嚼力や嚥下の問題など個々の患者様に適した食事内容、精神症状にあわせた食事が益々求められるようになってきている。

区分		年度	30年度	29年度	対前年度比 (%)	
一般食	常食	菜食	226,329	224,882	100.6	
		軟菜食	19,853	27,335	72.6	
		分粥食	7,888	3,745	210.6	
	形態調整食	小計		27,741	31,080	89.3
		流動食	26	0	—	
		ソフト食	2,779	629	441.8	
		きざみとろみ食	17,658	12,758	138.4	
		ミキサー食	5	124	4.0	
		ペースト食	252	1,457	17.3	
		ゼリー食	0	2,001	—	
		ゼリー訓練食	52	19	273.7	
		小計		20,772	16,988	122.3
	計		274,842	272,950	100.7	
特別食	加算	腎炎食	1,101	1,632	67.5	
		心臓病食	146	979	14.9	
		肝臓病食	472	0	—	
		糖尿病食	8,574	10,941	78.4	
		膵臓病食	402	388	103.6	
		脂質代謝異常症食	3,368	2,435	138.3	
		肥満食	358	1,097	32.6	
		小計		14,421	17,472	82.5
	非加算	エネルギーコントロール食	2,294	3,270	70.2	
		塩分コントロール食	814	776	104.9	
		塩分エネルギーコントロール食	48	0	—	
		脂質コントロール食	210	6	3,500.0	
		濃厚流動食	2,174	2,489	87.3	
		検査食	487	477	102.1	
		コメント指示食	1,756	2,486	70.6	
		小計		7,783	9,504	81.9
		計		22,204	26,976	82.3
合計		297,046	299,926	99.0		
デイ・ケア		2,764	3,153	87.7		
検食・保存食		2,190	2,190	100.0		
総合計		302,000	305,269	98.9		



イ 栄養管理・NST活動

平成30年度は、カンファレンスにおいて挙げられる症例件数は減少しているが、管理栄養士による病棟訪問や摂食状況の観察依頼は増加している。多職種間での連携が図れてきており、病棟におけるカンファレンスが活性化されている。

低栄養状態のみならず、過剰栄養、摂食・嚥下に問題がある入院患者様に対する栄養ケアの充実を目的とした管理栄養士の介入により食事変更や補助食品の活用が効果的に実施されるようになってきている。NST・栄養管理検討部会においては、NST通信の年3回の発行、勉強会の年3回実施など院内全体に向けた啓蒙活動を実施した。

区 分	年 度	30年度	29年度	対前年度比 (%)
スクリーニング件数（新規入院患者）		1,142	1,114	102.5
カンファレンス症例件数		515	582	88.5

ウ 栄養食事指導

平成30年度の個人指導は、外来患者については、診察日にあわせ食生活改善のアドバイスを実施した。入院患者については、病棟において栄養指導を実施した。平成30年度は、全体の栄養食事指導件数が前年度対比103.4%と昨年度に引き続き増加した。特に外来の個人指導件数は前年度対比138.8%と大幅に増加した。

平成30年度の集団指導は、ストレス外来治療プログラム「リワーク」のほか、依存症病棟における「せりがや講座」、食生活自立支援のための「作業療法プログラム」、デイケア通院患者対象の「パワーアップセミナー」などに参画した。

区分 年度	入 院			外 来			合 計		
	個人指導	集団指導		個人指導	集団指導		個人指導	集団指導	
	件数	件数	延人数	件数	件数	延人数	件数	件数	延人数
30年度	88	14	128	333	3	14	421	17	142
29年度	167	18	148	240	3	21	407	21	169
対前年度比 (%)	52.7	77.8	86.5	138.8	100.0	66.7	103.4	81.0	84.0

エ その他

実習生の受け入れ指導

神奈川県立保健福祉大学より管理栄養士実習受託、3週間2名の実習を実施した。

関東学院大学より管理栄養士実習受託、3週間4名の実習を実施した。

(11) 保育業務

平成30年度は、精神医療センター及びこども医療センターに勤務する看護師、医師の幼児を対象とするとともに、保育時間も6時30分から22時までとしている。また、毎週土曜日と週2日（火・木）の夜間保育、月1回日曜保育（第3を基本）も実施している。

ア 保育の状況 平成30年度（平成31年3月1日時点）

年齢	男	女	計	保 護 者 の 所 属			
6 歳	1	1	2	精神医療センター 0	こども医療センター 2		
5 歳	3	1	4	精神医療センター 1	こども医療センター 3		
4 歳	2	4	6	精神医療センター 1	こども医療センター 5		
3 歳	3	12	15	精神医療センター 3	こども医療センター 10	地域 2	
2 歳	6	5	11	精神医療センター 2	こども医療センター 8	地域 1	
1 歳	0	5	5	精神医療センター 0	こども医療センター 5	地域 0	
計	15	28	43	精神医療センター 7	こども医療センター 33	地域 3	

イ 主な行事

月	内 容	
4	進級式、クラス懇談会	誕生会
5	芋苗植え、こどもの日製作、母の日製作、保育参観	〃
6	ぎょう虫検査、前期健康診断、父の日製作	〃
7	プール開き（プールは～8/31まで実施）、終園式、七夕製作	〃
9	始園式、秋祭り、お月見製作	〃
10	運動会、秋の遠足	〃
11	芋掘り、歯みがき指導	〃
12	クリスマスお楽しみ会、終園式、なかよし発表会、後期健康診断	〃
1	始園式、個人面談	〃
2	節分、おひなさま製作	〃
3	お別れ遠足、卒園式、終園式	〃

平成30年度 **業 務 年 報**

令和元年11月発行

神奈川県立精神医療センター

横浜市港南区芹が谷2-5-1

TEL 045-822-0241

印刷所 文明堂印刷株式会社 横浜営業所

横浜市南区共進町3-54-1 佐藤ビル 1F-B

TEL 045-731-1441



地方独立行政法人神奈川県立病院機構
神奈川県立精神医療センター

横浜市港南区芹が谷2-5-1 〒233-0006 電話(045)822-0241(代表) FAX(045)822-0242